

令和3年度使用広島市立義務教育諸学校用
教科用図書採択について（答申）

〔教科（種目）〕

国語
書写
社会（地理的分野）
社会（歴史的分野）
社会（公民的分野）
地理
数学
理科
音楽（一般）
音楽（器楽合奏）
美術
保健体育
技術・家庭（技術分野）
技術・家庭（家庭分野）
英語
道徳

令和2年8月 19 日

広島市教育委員会様

広島市教科用図書採択審議会

会長 長谷川 洋



令和3年度使用広島市立義務教育諸学校用教科用図書採択について（答申）

広島市教育委員会から、令和2年5月29日付け、広市教学指二第19号で諮問されたこのことについて、審議した結果を別紙のとおり答申します。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔国語〕

1 教科 [国語] ・ 種目 [国語]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書（教科 [国語] 種目 [国語]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（4者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 全ての小・中学校で朝読書の取組、学校図書館の環境整備を実施していることなど、読書活動の推進に力を入れていること
- 複数の文章や資料から目的に応じて必要な情報を取り出すことや、相手意識を持って、分かりやすく相手に伝えることに課題が見られること
- 多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着にも課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方」
- 観点1「基礎・基本の定着」、視点③「漢字や語句の取り扱い方」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑩「社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方」

東 京 書 籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに、「読書案内」として、教材と関連する本を1冊紹介している。また、「読書への招待」の後に、教材と関連する本を12冊紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> 第1学年：「図書館での調べ物」、「ポップ作り」 第2学年：「ビブリオバトル」、「一枚レポートにまとめる」 第3学年：「読書会」「将来の目標や計画を立てる」 ○ 各学年、3人ずつ、異なる職業の人による「私のおすすめの本」を掲載している。 ○ 読書に関する作品については、各学年、本編の「読書への招待」に、作品を3つ掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> また、巻末の「資料編」に、作品を2つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭に既習事項を掲載するとともに、「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「言葉とメディア」を配置し、教材の後の「てびき」に、学習課題を示している。 ○ 各学年、巻末の「資料編」に、「情報の整理」の参考となる資料として、以下の内容を掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> 第1学年：「著作権と引用」 第2学年：「著作権について考える」 第3学年：「情報の信頼性を確かめる」
------------------	---

<p style="text-align: center;">三 省 堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに、「私の本棚」として、教材と関連する本を3冊紹介している。また、「読書の広場」に、「小さな図書館」として、6のテーマで、47冊の本を紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 第1学年：「ブッククラブ」 第2学年：「ビブリオバトル」 第3学年：「ブックトーク」 ○ 各学年、1人ずつ、作家の「私の読書体験」を掲載している。 ○ 読書に関する作品については、各学年、巻末の「読書の広場」に、作品を4つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭の「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」を配置し、教材の前に、学習課題を示している。 ○ 各学年、巻末の「資料編」に、「情報の整理」の参考となる資料として、以下の内容を掲載している。 全学年共通：「情報を活用する」、「情報探しの方法」、「引用と著作権」
<p style="text-align: center;">教 育 出 版</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元ごとに、「広がる本の世界」として、教材と関連する本を10冊紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 第1学年：「本の帯やポップ作り」 第2学年：「レポート作成」 第3学年：「ビブリオバトル」、「読書記録」 ○ 読書に関する作品については、各学年、本編の「読書への招待」に、作品を2つ掲載している。 また、巻末の「言葉の自習室」に、作品を4つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭の「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「メディアと表現」を配置し、教材の文章や資料に、学習課題を示している。 ○ 各学年、本編の「メディアと表現」で、「情報の整理」の参考となる内容を扱っている。 第1学年：「メディアの編集について」、「広告の情報について」 第2学年：「SNS との付き合い方について」 第3学年：「メディア・リテラシーについて」、「ニュースでの情報編集について」

光 村 図 書 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに、「広がる読書」として、関連する本を2冊紹介している。また、各学年、テーマ別に50冊の本を紹介している。 ○ 読書活動として、以下の活動を掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> 第1学年：「ポップ作り」、「感想の共有」、「読書記録」 第2学年：「本の紹介合戦」「読書ポスター」、「読みたい本リスト」 第3学年：「ブックトーク」、「読書会」、「読書生活のデザイン」 ○ 各学年、1人ずつ、異なる職業の人による「読書コラム」を掲載している。 ○ 読書に関する作品については、各学年、本編の「読書」に、作品を3～5つ掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> また、巻末の「学習を広げる」に、作品を2～4つ掲載している。 ○ 「情報の扱い方」については、各学年、巻頭の「領域別教材一覧」に、教材との関連を示している。 ○ 「情報」に関する教材については、各学年、「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」、「情報社会を生きる」を配置し、教材の文章や資料に、学習課題を示している。また、巻末に、「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」の一覧を掲載している。 ○ 各学年、本編の「情報社会を生きる」に、「情報の整理」の参考となる資料として、以下の内容を掲載している。 <ul style="list-style-type: none"> 第1学年：「情報を集めよう」、「情報を読み取ろう」、「情報を引用しよう」、「著作権について知ろう」 第2学年：「メディアを比べよう」、「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」 第3学年：「実用的な文章を読もう」、「報道文を比較して読もう」
----------------------------	--

(2) 観点1「基礎・基本の定着」、視点③「漢字や語句の取り扱い方」

東 京 書 籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行数を「・」と五行ごとに数字で示している。 ○ 新出漢字は、脚注に抜き出し行数、音訓を示している。 ○ 意味や用法、類義語・対義語など、注意する語句は、脚注に抜き出し、行数、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。 ○ 巻末の「新出漢字一覧」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例を示している。 ○ 教科書で学習する用語については、巻末の「学習用語一覧」に、言葉と該当するページを示している。 ○ 語彙の充実については、教材の後の「てびき」に、「広がる言葉」を設け、教材に出てくる言葉を扱っている。また、巻末の「言葉を広げよう」に、「広がる言葉」で扱った言葉に関連した言葉を掲載している。
------------------	--

三 省 堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行数を五行ごとに数字で示している。 ○ 新出漢字は、脚注に抜き出し行数、本文中の読みを示している。また、教材の終わりに、音訓と用例を示している。 ○ 意味や用法など、注意する語句は、脚注に抜き出し、行数、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。また、本文に掲載されている熟語の対義語や類義語は、脚注で言葉を示している。 ○ 巻末の「〇年生で学ぶ漢字字典」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例を示している。 ○ 教科書で学習する用語については、巻末の「学習用語辞典」に、言葉と意味、該当するページを示している。 ○ 語彙の充実については、教材の後の「学びの道しるべ」に、「語彙を豊かに」を設け、教材に出てくる言葉を扱っている。また、巻末の「資料編」に、「語彙の広がり」を設け、テーマ別にさまざまな言葉を掲載している。
教 育 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行数を「・」と五行ごとに数字で示している。 ○ 新出漢字は、脚注に抜き出し、漢字のみを示している。また、教材の終わりに、音訓と用例を示している。 ○ 意味や用法、類義語・対義語など、注意する語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。 ○ 巻末の「〇年生で学習した漢字」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例を示している。 ○ 教科書で学習する用語については、巻末「学習に必要な用語（索引）」に、言葉と該当する学年及びページを示している。 ○ 語彙の充実については、巻末の「折込」に、「理解に役立つ言葉」、「表現に役立つ言葉」を設け、さまざまな言葉を掲載している。
光 村 図 書 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行数を五行ごとに数字で示している。 ○ 新出漢字は、脚注に抜き出し、行数、本文中の読みとともにすべての音訓を示している。また、教材の終わりに、音訓と用例を示している。 ○ 意味や用法、類義語・対義語など、注意する語句は、脚注に抜き出し、意味調べ等の学習を促す記号で分類して示している。さらに、「漢字に親しもう」で、指定した言葉を使用して文章をつくる課題を設定している。 ○ 巻末の「〇年生で学習した漢字」に、本文に掲載された順に、初出ページ、音訓、部首、画数、筆順、音訓の用例、慣用句・ことわざなどを示している。 ○ 教科書で学習する用語については、巻末「〔索引〕学習のための用語一覧」に、言葉と該当するページを示している。 ○ 語彙の充実については、巻末の「資料編」に、「語彙を豊かに」を設け、さまざまな言葉を掲載している。 ○ 裏見返しに、2ページにわたり、「言葉を味わう」として、時、色、季節を表す言葉を示している。

(3) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の扉に、第1学年は詩、第2学年は短歌、第3学年は俳句を掲載するとともに、それぞれの背景には、作品と関係した写真を掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「学習の進め方・教科書の使い方」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。 ○ 教材の後の「てびき」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、教材を読む視点である「言葉の力」、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」では、教材の中で学んだことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫されている。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の扉に、単元や季節と関係したイラストを掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「確かな言葉の力をつけるために」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。 ○ 教材の後の「学びの道しるべ」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、「学びを振り返る」を設け、学習の過程を示している。また、「学びを振り返る」では、「振り返りのキーワード」を示し、次の学習につなげることができるよう工夫されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の扉に、単元と関連する作品の言葉を大きな字で掲載している。また、「四季のたより」を設け、季節に関連した短歌や俳句を掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「言葉の地図」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。 ○ 教材名のそばに目標、教材の後の「みちしるべ」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」は、目標と対になっており、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の扉に、単元や季節と関係した写真を掲載するとともに、ページの下に、「時を表す言葉」として、写真と関連する言葉を掲載している。また、「季節のしおり」を設け、季節に関連した詩歌や言葉を掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「この教科書で学習するみなさんへ」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。 ○ 教材名のそばに目標、教材の後の「学習」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返る」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返る」では、学習した教材や、過去に学習した教材を取り上げ、自分の言葉でまとめ、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。 ○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習において、表現する際の参考として、「達人からのひと言」を設け、さまざまな業種の人のコメントを掲載している。

(4) 観点5「言語活動の充実」、視点⑩「社会生活に必要とされる言語活動の種類と工夫」

東京書籍	<p>○ 教材名に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：「食文化」のレポート、「写真」の意見文、「似ている言葉」スピーチ、グループディスカッション等</p> <p>第2学年：「地域の魅力」の紹介文、「地図」の意見文、プレゼンテーション、リンクマップによる話合い等</p> <p>第3学年：「環境」の新聞、「ポスター」の批評文、条件スピーチ、合意形成を目指す話合い、時を超える手紙等</p> <p>○ 巻末の「資料編」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>全学年共通：「話すこと・書くこと」題材例、手紙の書き方・原稿用紙の使い方・推敲の観点</p> <p>第1学年：発想・整理の方法（カードによるグルーピング、ウェビング、新聞の作り方）</p> <p>第2学年：発想・整理の方法（樹形図、座標軸法）、取材の仕方（インタビューの仕方、アンケートのとり方）</p> <p>第3学年：話合いの方法（ディベート、パネルディスカッション）</p>
三省堂	<p>○ 教材名に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：グループディスカッション、レポート、随筆、スピーチ、行事案内リーフレット意見文等</p> <p>第2学年：グループディスカッション、手紙・メール、短歌・俳句、プレゼンテーション、投稿文等</p> <p>第3学年：グループディスカッション、課題作文、批評文、パブリック・スピーキング、ポスター等</p> <p>○ 巻末の「資料編」、「社会生活に生かす」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>全学年共通：メモを活用する（忘れないためのメモ、何かを生み出すためのメモ）・話合いの形式を選ぶ（グループディスカッション、ディベート、パネルディスカッション、ワールドカフェ）・辞典を活用する・手紙・はがき・メールの書き方・原稿用紙の使い方・推敲の仕方</p>
教育出版	<p>○ 巻頭「言葉の地図」に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：紹介、説明、質問、話合い、報告、意見文、案内文、随筆、報告文、意見文等</p> <p>第2学年：説明、提案、質問、討論、投書、意見文、記事、物語、短歌等</p> <p>第3学年：説明、スピーチ、討論、説明文、批評文、PR文、作品集、俳句等</p> <p>○ 巻末の「言葉の自習室」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>第1学年：マッピングについて、原稿用紙の使い方</p> <p>第2学年：レポートの書き方</p> <p>第3学年：模擬面接</p>

光 村 図 書 出 版	<p>○ 教材名に、以下の言語活動例を示している。</p> <p>第1学年：わかりやすく説明する、好きなことをスピーチで紹介する、質問で話を引き出す、案内文を書く、資料を引用してレポートを書く、話し合いの展開を捉える、グループディスカッションをする等</p> <p>第2学年：職業ガイドを作る、資料を示してプレゼンテーションをする、質問で思いや考えを引き出す、意見文を書く、討論で多角的に検討する、鑑賞文を書く、「ある日の自分」の物語を書く等</p> <p>第3学年：スピーチで社会に思いを届ける、質問で相手の思いに迫る、説得力のある批評文を書く、課題解決のために会議を開く、グラフを基に小論文を書く等</p> <p>○ 巻末の「資料」で、以下の内容を掲載している。</p> <p>第1学年：アンケート・原稿用紙の使い方・手紙の書き方</p> <p>第2学年：インタビュー・通信文</p> <p>第3学年：話し合いの方法</p>
----------------------------	--

3 意見

(1) 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、読書活動として、「ポップ作り」、「感想の共有」、「読書記録」など、各学年3つの活動を掲載している。
- 視点①の工夫として、各学年、「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」、「情報社会を生きる」を配置し、教材の文章や資料に、学習課題を示すとともに、巻末に、一覧を掲載している。また、「情報社会を生きる」に、「情報の整理」の参考となる資料を掲載している。
- 視点③の工夫として、「漢字に親しもう」で、指定した言葉を使用して文章をつくる課題を設定している。また、巻末の「資料編」に、「語彙を豊かに」を設け、さまざまな言葉を掲載している。
- 視点③の工夫として、裏見返しに、2ページにわたり、「言葉を味わう」として、時、色、季節を表す言葉を掲載している。
- 視点④の工夫として、教材の後の「学習」に「振り返る」を設け、学習した教材や、過去に学習した教材を取り上げ、自分の言葉でまとめ、学習を振り返って次につなげることができるようにしている。
- 視点④の工夫として、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習において、表現する際の参考として、「達人からのひと言」を設け、さまざまな業種の人々のコメントを掲載している。
- 視点⑩の工夫として、教材名に、「好きなことをスピーチで紹介する」、「資料を引用してレポートを書く」などの言語活動例を示している。

以上のとおり、光村図書出版の教科書は、1(1)に記した、本市の「読書活動の推進に力を入れている」という実態や、生徒の「複数の文章や資料から目的に応じて必要な情報を取り出すことや、相手意識を持って、分かりやすく相手に伝えることに課題が見られる」、「多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、国語科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、読書活動として、「図書館での調べ物」、「ポップ作り」など、各学年2つの活動を掲載している。
- 視点①の工夫として、巻末に、「情報の整理」の参考となる資料を掲載している。
- 視点③の工夫として、教材に出てくる言葉を「広がる言葉」で扱うとともに、巻末の「言葉を広げよう」に、関連するさまざまな言葉を掲載している。
- 視点④の工夫として、教材の後の「てびき」に「振り返り」を設け、教材で学んだことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるようにしている。
- 視点⑩の工夫として、教材名に、「食文化」のレポートなどの言語活動例を示している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「読書活動の推進に力を入れている」という実態や、生徒の「複数の文章や資料から目的に応じて必要な情報を取り出すことや、相手意識を持って、分かりやすく相手に伝えることに課題が見られる」、「多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、国語科で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕種目〔書写〕

2 教科 [国語] 種目 [書写]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [国語] 種目 [書写]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（4者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 文字表現の多様化により、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を日常生活に活かすことができていない生徒が多いという課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点④「単元・題材や資料等の配列・分量」
- 観点4「内容の表現・表記」、視点⑥「他教科や日常生活との関連の示し方」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「学習や日常生活に生きる言語活動の工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

- (1) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「書写の学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。 ○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「とん・すう・びた・ぐっ・すっ」と擬音語を用いて説明している。 ○ 行書の導入部では、漫画を配置し、行書の特徴や利点について示している。 ○ コラム「文字のいずみ」を設け、「伝統的な用具・用材」、「手書き文字と活字」、「仕事の中の手書き文字」、「文字と絵」などを紹介し、身の回りにある文字について興味・関心を持たせている。 ○ 「目標」、「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」「振り返って話そう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返って話そう」では、学習したことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫している。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「この教科書で学ぶ皆さんへ」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。 ○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。 ○ 行書の導入部では、行書と楷書を比較できる教材を配置し、行書の特徴や利点について示している。 ○ 「学びを広げる」を設け、手書き文字や活字の伝え方の変遷や文字にかかわる仕事について紹介し、身の回りにある文字について興味・関心を持たせている。 ○ 「目標を確かめよう」、「書き方を学ぼう」、「見つけよう・考えよう」、「毛筆で書こう」、「学習を振り返ろう」、「書いて身につけよう」、「自分の言葉でまとめよう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。 ○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。 ○ 行書の導入部では、写真と解説を多く掲載し、行書の特徴や利点について示している。 ○ 「コラム」を設け、「季節の行事と書写」、「日本建築と書」などを紹介し、身の回りにある文字について興味・関心を持たせている。 ○ 「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「振り返ろう」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「学習の進め方」に、教科書の使い方や学習の進め方を示している。 ○ 運筆について、筆圧の違いを視覚的に示している。また、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。 ○ 行書の導入部では、「速さを比べてみよう」を設け、速さを変えて書くことで、行書の特徴や利点について示している。 ○ 「コラム」を設け、「文字の歴史を探る」、「UD 書体ってなんだろう」などを紹介し、身の回りにある文字について興味・関心を持たせている。 ○ 「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」といった学習の流れに沿って、教材が構成されている。また、「学習を振り返る」では、評価の観点を示し、学習したことを次の学習につなげることができるよう工夫している。 ○ 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようにしている。

(2) 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点④「単元・題材や資料等の配列・分量」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆教材を、3年間で21教材掲載している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年5教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「大志」、「夏山の緑うつりし小窓かな」、「日光」、「大空」、「美しい緑」、「早春」、「夢の実現」、「温故知新」である。 ○ 広島に関する教材として、「熊野筆・川尻筆」、「平和の門」を扱っている。 ○ サイズ B5判より2.7cm横長 重さ 約325g
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆教材を、3年間で19教材掲載している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年3教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「いろは歌」、「暑き日を海に入れたり最上川」、「名月」、「元氣」、「探究」、「日進月歩」、「輝く生命」である。 ○ 広島に関する教材として、「四十七都道府県名」を扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 約260g

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆教材を、3年間で24教材掲載している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年8教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「いろは歌」、「大」、「大木」、「栄光」、「平和」、「新たな決意」、「世界遺産」である。 ○ 広島に関する教材として、「熊野筆」、「広島城の碑」、「都道府県名一覧」を扱っている。 ○ サイズ B5判より2.7cm横長 重さ 約305g
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆教材を、3年間で30教材掲載している。各学年の内訳は、第1学年14教材、第2学年11教材、第3学年5教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「春風」、「いろは歌(仮名)」、「夏の夜やちぎれちぎれの天の川」、「一」、「二」、「口」、「大」、「大木」、「北西」、「月光」、「不言実行」、「文武両道」、「将来の夢」である。 ○ 広島に関する教材として、「伊都岐島(厳島)神社」、「はがきの表書き」、「都道府県行書一覧」、「志望理由書」を扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 約295g
(3) 観点4「内容の表現・表記」、視点⑥「他教科や日常生活との関連の示し方」	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科と関連がある教材には、教科関連マークを付し、関連する教科名を示している。 ○ 日常生活との関連の示し方については、「生かそう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。 ○ 単元の終わりに、「生活に広げよう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活との関連の示し方については、教材の後に「振り返ろう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。 ○ 各学年の終わりに、「やってみよう」を設け、1年間で学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活との関連の示し方については、教材の後に「まとめ書きと応用」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。 ○ 各学年に、「学習を生かして書く」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科と関連がある教材には、教材に「国語」と示している。 ○ 日常生活との関連の示し方については、教材の後に「生かそう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。 ○ 各学年に、「学校生活」、「日常生活」などを設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。

(4) 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「学習や日常生活に生きる言語活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生活に広げよう」に、案内の手紙、年賀状、本のポップ、防災訓練におけるポスター、案内表示などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。 ○ 巻頭に、「手紙を書く」、「ポスターを書く」、「メモをとる」など、書写で学んだことが役立つ場面を例示している。 ○ 巻末の「さまざまな書式」に、手紙・新聞・リーフレット・ポスター・フリップ・レポート・原稿用紙・入学願書・送り状・往復はがき・のし袋・簡潔な手紙・電子メールの書き方について、イラストや写真を示している。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やってみよう」に、グループ新聞、情報誌、名言集などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。 ○ 巻末の「日常の書式」に、便箋・封筒・はがき・往復はがき・送り状・のし袋・願書・原稿用紙の書き方について、イラストや写真で示している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習を生かして書く」や「学校生活に生かして書く」に、本の帯やポップ作り、ポスターセッション、新聞などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。 ○ 巻頭に、レポート、手紙、掲示物など、書写で学んだことが役立つ場面を例示している。 ○ 巻末の「書式の教室」に、手紙・一筆箋・封筒・年賀状・はがき・往復はがき・包み紙・エアメール・原稿用紙・小包伝票・願書・志願理由書の書き方について、イラストや写真で示している。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やってみよう」、「国語」、「学校生活」、「日常生活」に、学級スローガン、個人目標、本の帯、立て看板、応援旗、ノート、メモ、一筆箋、壁新聞、テレビ番組のタイトルデザイン、冊子、年賀状の書き方などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。 ○ 巻末の「日常に役立つ書式」に、手紙（縦書き）・手紙（横書き）・宛名・封筒・メール・はがき・往復はがき・願書・原稿用紙・送り状の書き方について、イラストや写真で示している。 ○ 第3学年では、学習の参考として、「私の好きな言葉」に、スポーツ選手や漫画家の直筆の書を掲載している。

3 意見

(1) 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点⑨の工夫として、運筆について、筆圧の違いを視覚的に示すとともに、「トン・スー・トン」と擬音語を用いて説明している。
- 視点⑨の工夫として、切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりすることができるようにしている。

- 視点④の工夫として、広島に関する教材として、「伊都岐島（厳島）神社」、「はがきの表書き」、「都道府県行書一覧」、「志望理由書」を扱っている。
- 視点⑥の工夫として、各学年に、「学校生活」、「日常生活」などを設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしているとともに、国語科と関連がある教材には、教材に「国語」と示している。
- 視点⑧の工夫として、書写で学習したことを生かすよう、「やってみよう」、「国語」、「学校生活」、「日常生活」に、学級スローガン、個人目標、本の帯、壁新聞、テレビ番組のタイトルデザインなどの言語活動を示している。
- 視点⑨の工夫として、第3学年では、学習の参考として、「私の好きな言葉」に、スポーツ選手や漫画家の直筆の書を掲載している。

以上のとおり、光村図書出版の教科書は、1(1)に記した、生徒の「文字表現の多様化により、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を日常生活に活かすことができている生徒が多い」という課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、国語科 書写で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点③の工夫として、運筆について、筆圧の違いを視覚的に示すとともに、「とん・すう・びた・ぐっ・すっ」と擬音語を用いて説明している。
- 視点④の工夫として、広島に関する教材として、「熊野筆・川尻筆」、「平和の門」を扱っている。
- 視点⑥の工夫として、単元の終わりに、「生活を広げよう」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしているとともに、他教科と関連がある教材には、教科関連マークを付し、教科名を示している。
- 視点⑨の工夫として、書写で学習したことを生かすよう、「生活に広げよう」に、案内の手紙、年賀状、防災訓練におけるポスターなどの言語活動を示している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、生徒の「文字表現の多様化により、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を日常生活に活かすことができている生徒が多い」という課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、国語科 書写で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕種目〔地理的分野〕

③ 教科 [社会] 種目 [地理的分野]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [社会] 種目 [地理的分野]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（4者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 都市再開発、高速道路の整備、自然災害等、状況が大きく変容しており、地域の実態や課題を調べる学習に適した地域であること
- 地図や諸資料を有効に活用して事象を説明する力に課題が見られること
- 自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする力に課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点②「国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「問題解決的な学習を実施するための工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点②「国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」で、6気候帯（寒帯・冷帯で4ページ）の人々の生活、気候、宗教、暮らしの変化について説明している。なお、6地域を学習した後、各気候帯の特徴をまとめる構成となっている。 ○ 「国際理解」について、小項目「アフリカ州」で、アフリカを支援するための日本の活動として、「日本の伝統的な工法で造られる上総掘りの井戸」、「アフリカの学校で理科を教える日本人」、「青年海外協力隊の活動」（計3点）を掲載している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の、各小項目の最後に「基礎・基本のまとめ」を設け、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行い、「まとめの活動」では、各州で着目した「地球的課題」を、探究のステップで例に挙げた資料を参考にしながら、振り返る学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「資料から発見」を設け、資料を読み取る力や、考える力、説明する力などの、地理的な技能を身に付けさせる学習活動を設定している。 ○ コラム「スキルアップ」を設け、雨温図の読み取り方や、地形図の読み取り方などの技能を身に付けさせる学習課題を掲載している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」で、6気候帯（寒帯・冷帯で2ページ）の人々の生活、気候、宗教、民族・言語について説明している。なお、各気候帯の特徴を学習した後、6地域を学習する構成となっている。 ○ 「国際理解」について、小項目「アフリカ州」で、アフリカを支援するための日本の活動として、「電柱を設置する現地の労働者と日本人の技師」（計1点）を掲載している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の、各小項目の最後に「学習のまとめと表現」を設け、各州で学習した基礎的な知識を確認するなどの、学習活動を設定している。 ○ コラム「地理の技」を設け、日本の略地図の描き方や、新旧の地形図を比較するなどの、地理的な技能を身に付けさせる学習課題を掲載している。

帝 国 書 院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」で、6気候帯（寒帯・冷帯で2ページ）の人々の生活、気候、宗教、生活の変化について説明している。なお、各気候帯の特徴を学習した後、6地域を学習する構成となっている。 ○ 「国際理解」について、小項目「アフリカ州」で、アフリカを支援するための日本の活動として、「ネリカ米の栽培指導をする日本の青年海外協力隊の技術者」（計1点）を掲載している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の、各小項目の最後に「節の学習を振り返ろう」を設け、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行い、ステップ1からステップ2を通して、州の特色を考える課題を掲載し、ステップ3では、発展的な課題として、持続可能な社会に向けて考える学習活動を設定している。 ○ コラム「技能をみがく」を設け、時差の調べ方や、ルートマップの作り方などの技能を身に付けさせる学習課題を掲載している。
日 本 文 教 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」で、6気候帯（寒帯・冷帯で2ページ）の人々の生活、気候、宗教、言語について説明している。なお、各気候帯の特徴を学習した後、6地域を学習する構成となっている。 ○ 「国際理解」について、小項目「アフリカ州」で、アフリカを支援するための日本の活動として、「アフリカで医療や衛生についての活動をする国際協力機構（JICA）の隊員」、「日本の企業の協力で建設されたアルミニウムの生産工場」（計2点）を掲載している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の、各小項目の最後に「学習のまとめ」を設け、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行うことができる学習活動を設定している。 ○ コラム「スキルアップ」を設け、地図の活用法や、写真の活用法などの技能を身に付けさせる学習課題を掲載している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東 京 書 籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目「中国・四国地方」の冒頭に、「瀬戸大橋」等の関連する写真を掲載している。また、キャラクターの吹き出しで「このような大きな橋ができたことで、暮らしはどのように変わったのだろうか。」と掲載し、写真との関連付けをしている。 ○ 小項目の課題を「探究課題」として、資料から読み取った情報をもとにして、「中国・四国地方では、なぜ交通・通信網が重要な役割を果たしているのでしょうか」と示し、更に本文ページにも、「どのような」、「どのように」等の学習課題を掲載している。 ○ 本文ページの「チェック」で、基礎的・基本的な内容を確認する活動を設けている。 ○ 中項目「日本の諸地域」の各小項目の最後に、「基礎・基本のまとめ」として、「○○地方をふり返ろう」を設け、各地方の特色等をまとめる学習を行うために、探究のステップを解決しながら振り返る学習活動を設けている。また、「まとめの活動」では、探究課題を踏まえて、より発展的な課題に取り組む学習活動を設けている。 ○ 振り返るための活動の工夫として、「みんなでチャレンジ」を設け、グループで話し合う学習課題を掲載している。 ○ 特設ページ「もっと地理」を設け、小項目で学習した内容を深め、身近な問題として捉えることのできる学習課題を掲載している。
------------------	---

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目「中国・四国地方」の冒頭に、「地域で予想される災害について学ぶ」、「水島コンビナート」等の関連する写真を掲載している。 ○ 小項目の課題を「学習の視点」として、「人口集中や人口減少の視点から、中国・四国地方の特色を考えていこう」と示し、更に本文ページにも、「どのような」、「どのように」等の学習課題を掲載している。 ○ 本文ページの「確認」で、この時間で学習したことを振り返って確認する活動を設けている。 ○ 中項目「日本の諸地域」の各小項目の最後に、「学習のまとめと表現」として、「ワードチェック」で語句の確認を行い、「地図を使って確かめよう」、「表現しよう」を設け、「意見を交換しよう」では、他者と意見を交換しながら振り返る学習活動を設けている。 ○ 特設ページ「現代日本の課題を考えよう」を設け、小項目で学習した内容を深め、身近な問題として捉えることのできる学習課題を掲載している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目「中国・四国地方」の冒頭に、中国・四国地方の地図を掲載するとともに、「厳島神社」、「鳥取砂丘」等の関連するイラストを掲載している。また、「探してみよう」を設け、小学校で学習したことを振り返る学習活動を設けている。さらに、「写真で眺める中国・四国地方」を設け、関連する写真を掲載している。 ○ 小項目の課題を「節の問い」として、「中国・四国地方における交通網や通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか」と示し、さらに本文ページにも、「どのような」、「どのように」等の学習課題を掲載している。 ○ 本文ページの「確認しよう」で、学習上大切な事項を確認する活動を設けている。 ○ 中項目「日本の諸地域」の各小項目の最後に、「節の学習を振り返ろう」として、「学んだことを確かめよう」で語句の確認などを行い、ステップ1からステップ2で「節の問い」について振り返る学習活動を設けている。また、ステップ3では、より発展的な課題に取り組む学習活動を設けている。 ○ 特設ページ「地域の在り方を考える」を設け、小項目で学習した内容を深め、身近な問題として捉えることのできる学習課題を掲載している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目「中国・四国地方」の冒頭に、中国・四国地方の面積・人口・県内総生産を掲載するとともに、「たいの養殖」、「厳島神社」等の関連するイラストを掲載している。また、「クイズ」を設け、岡山市の人口に関する課題を掲載している。 ○ 小項目の課題を「人口や都市・村落をテーマに」と示し、更に本文ページにも、「どのような」、「どのように」等の学習課題を掲載している。 ○ 本文ページの「確認」で、見開きの学習の理解を確かにするための活動を設けている。 ○ 中項目「日本の諸地域」の各小項目の最後に、「学習のまとめ」で、語句の確認などを行い、また「アクティビティ」を付し、学習内容の理解を深めながら、振り返る学習活動を設けている。 ○ 特設ページ「自由研究」や「チャレンジ地理」を設け、小項目で学習した内容を深め、身近な問題として捉えることのできる学習課題を掲載している。

(3) 視点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「問題解決的な学習を実施するための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「地域調査の手法」で、16 ページにわたり、問題解決的な学習を実施するための手立てを掲載し、問題解決的な学習を実施する流れとして、「情報を集める」、「調査テーマを決める」、「仮説を立てる」、「調査計画を立てる」、「調査する」、「考察しまとめる」、「発表する」の順で掲載している。 ○ 問題解決的な学習に役立てるために、「スキルアップ」を設け、「調査テーマを決めるヒント」、「身近な地域の情報の集め方」、「地形図の読み取り方」、「空中写真と比較した土地利用の読み取り」、「デジタル地図の使い方」等を掲載している。 ○ 世界の諸地域や日本の諸地域の学習で、「まとめの活動」を設け、「探究のステップ」で挙げた資料や学習した内容に関連する資料を取り上げながら問題を解決していく学習活動を設定している。 ○ 資料や学習課題に「見方・考え方」マークを付し、地理的な見方・考え方を活用して考察を深める活動を設定している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「地域調査の手法」で、14 ページにわたり、問題解決的な学習を実施するための手立てを掲載し、問題解決的な学習を実施する流れとして、「野外観察をし、地域の情報を集める」、「調査テーマを決める」、「テーマごとに調べる」、「考察してまとめる」、「資料をつくる」、「調査結果を伝える」の順で掲載している。 ○ 問題解決的な学習に役立てるために、「地域調査の手引き」を設け、「調査計画書をまとめる」、「気づいたことや疑問を分類する」、「地形図の読み取り方」、「聞き取り調査」、「調査結果をまとめる」を掲載している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「地域調査の手法」で、12 ページにわたり、問題解決的な学習を実施するための手立てを掲載し、問題解決的な学習を実施する流れとして、「テーマを決める」、「調査方法を考える」、「野外調査をする」、「文献調査をする・まとめ」の順で掲載している。 ○ 問題解決的な学習に役立てるために、「技能をみがく」を設け、「ルートマップの作り方」、「地形図の使い方①～縮尺と地図記号～」、「地形図の使い方②～等高線と断面図～」、「新旧の地形図の比較」、「地形図の使い方③～地理院地図～」等を掲載している。 ○ 「節の学習を振り返ろう」を設け、「『地理的な見方・考え方』を働かせて説明しよう」において、関連が深い見方・考え方を掲載している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「地域調査の手法」で、20 ページにわたり、問題解決的な学習を実施するための手立てを掲載し、問題解決的な学習を実施する流れとして、「地域を見直す」、「調査テーマを決める」、「調査計画を立てる」、「調査を進める」、「調査結果をもとに考察する」、「調査結果をまとめる」、「調査結果を発表する」の順で掲載している。 ○ 問題解決的な学習に役立てるために、「スキルアップ」を設け、「地域の特色をつかむための五つの視点」、「地形図のしくみと約束を知る」、「デジタル地図にふれてみよう」、「地形図を身近な地域の調査に役立てる」、「関連図のつくり方」等を掲載している。 ○ 見開きページの学習課題に「見方・考え方」マークを付し、学習課題を解決するための手がかりを示している。

(4) 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するために、特設ページ「資料から発見」を設け、地域に特徴的な資料を取り上げ、読み取ったり考えたりすることで、資料を読み取る力を身に付ける学習活動を設定している。また、「スキルアップ」では、統計資料の使い方などの技能を身に付ける学習活動を設定している。 ○ 中項目「日本の諸地域」では、「なぜ」という発問により小単元を貫く「探究課題」を示し、見開きごとに「探究課題」に沿った「学習課題」を設定している。また、「学習課題」のまとめとして、教科書の内容の「チェック」と、その情報をもとに理由を考察したり、自分の言葉で説明したりする「トライ」の二段階に分けた活動を設定している。 ○ 大項目「地域の在り方」では、持続可能な開発目標（SDGs）を冒頭に示し、「課題を見つけ」、「構想テーマを決める」、「情報を集める」、「要因を考察する」、「対策を考える」、「発表する」の順で掲載し、身近な地域の特色や課題を、SDGsに関連付けながら考察する学習活動を設定している。 ○ 「まとめの活動」を設け、「ウェビングマップ」、「クラゲチャート」、「ランキング」などのシンキングツールを利用して、導入で示された「探究課題」について、考えたことを自分の言葉でまとめる学習活動を設定している。 ○ 「まとめの活動」の中に、「みんなでチャレンジ」を設け、グループで活動する課題や、論述したり、意見交換したりする学習活動を設定している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するために、コラム「地理の技」を設け、地図やグラフなどの扱い方を学習する活動を設定し、特設ページ「地理にアプローチ」では、人口ピラミッドの作り方などの技能を身に付ける学習活動を設定している。 ○ 中項目「日本の諸地域」では、「学習の視点」を示し、見開きごとに「学習の視点」に沿った「学習課題」を設定している。また、「学習課題」のまとめとして、「確認」と「表現」の二段階に分けた活動を設定している。 ○ 大項目「地域の在り方」では、農村や都市の課題やニュータウンを例に示し、「地域の課題をとらえる（1）（2）」、「地域の課題を調べる」、「地域に向けて発信する」の順で掲載し、身近な地域を観察し、調査テーマを決定し、集めた資料をもとに考察する学習活動を設定している。 ○ 「学習のまとめと表現」を設け、「表現しよう」で思考を整理し、「意見を交換しよう」では、導入で示された「学習の視点」について、考えたことを自分の言葉でまとめる活動を設定し、論述したり、意見交換したりする学習活動を設定している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するために、コラム「技能をみがく」を設け、地図帳の使い方等の基礎的な技能を身に付ける学習活動を設定している。また、「スキルアップ」では、統計資料の使い方などの技能を身に付ける学習活動を設定している。 ○ 中項目「日本の諸地域」では、「章のねらい」と「第〇節の問い」という小単元を貫く課題を示し、見開きごとに「節の問い」に沿った「学習課題」を設定している。また、「学習課題」のまとめとして、本文や図版を確認する「確認しよう」と、その情報をもとに「学習課題」を解決するための「説明しよう」の二段階に分けた活動を設定している。 ○ 大項目「地域の在り方」では、持続可能な社会に向けて考えたことや、地球的課題を冒頭で示し、「課題を把握しよう」、「地域をとらえよう」、「課題の要因を考察しよう」、「課題の解決に向けて構想しよう」、「構想の成果を発信しよう」の順で掲載し、調査をして、考察する学習活動を掲載している。 ○ 「節の学習を振り返ろう」を設け、導入で示された「節の問い」について、ステップ1からステップ3で考えたことを、自分の言葉でまとめる活動を設定している。また、ステップ3ではグループで活動する課題を設け、論述したり、意見交換したりする学習活動を設定している。

日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するために、コーナー「スキルアップ」を設け、統計資料の使い方などの技能を身に付ける学習活動を設定している。 ○ 中項目「日本の諸地域」では、「地域的な特色を追究するためのテーマ」という小単元を貫く課題を示し、見開きごとに「追究するテーマ」に沿った「学習課題」を設定している。また、「学習課題」のまとめとして、「確認」において自分の言葉で説明する活動を設定している。 ○ 大項目「地域の在り方」では、京都市を例に示し、「地域の課題と特色をつかもう」、「地域の課題の要因を考察しようー自然と防災班ー」、「地域の課題の要因を考察しようー交通と観光班ー」、「課題の解決に向けて構想しよう」、「まちづくり会議を開こう」の順で掲載し、調査結果を分析・考察し、地域の特色をまとめていく学習活動を掲載している。 ○ 「学習のまとめ」を設け、「ダイヤモンドランキング」、「関係図づくり」、「PMI表づくり」などのシンキングツールを利用して、導入で示された「追究するテーマ」について、考えたことを自分の言葉でまとめる活動を設け、論述したり、意見交換したりする学習活動を設定している。
--------	--

3 意見

(1) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点②の工夫として、中項目「世界の諸地域」の、各小項目の最後に「基礎・基本のまとめ」を設け、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行い、「まとめの活動」では、各州で着目した「地球的課題」を、探究のステップで例に挙げた資料を参考にしながら、振り返る学習活動を設定している。
- 視点②の工夫として、特設ページ「資料から発見」を設け、資料を読み取る力や、考える力、説明する力などの、地理的な技能を身に付けさせる学習活動を設定している。
- 視点③の工夫として、小項目の課題を「探究課題」として、資料から読み取った情報をもとにして、「中国・四国地方では、なぜ交通・通信網が重要な役割を果たしているのでしょうか」と示し、更に本文ページにも、「どのような」、「どのように」等の学習課題を掲載している。
- 視点③の工夫として、中項目「日本の諸地域」の各小項目の最後に、「基礎・基本のまとめ」として、「〇〇地方をふり返ろう」を設け、各地方の特色等をまとめる学習を行うために、探究のステップを解決しながら振り返る学習活動を設けている。また、「まとめの活動」では、探究課題を踏まえて、より発展的な課題に取り組む学習活動を設けている。
- 視点④の工夫として、世界の諸地域や日本の諸地域の学習で、「まとめの活動」を設け、「探究のステップ」で挙げた資料や学習した内容に関連する資料を取り上げながら問題を解決していく学習活動を設定している。
- 視点④の工夫として、資料や学習課題に「見方・考え方」マークを付し、地理的な見方・考え方を活用して考察を深める活動を設定している。
- 視点⑤の工夫として、「まとめの活動」を設け、「ウェビングマップ」、「クラゲチャート」、「ランキング」などのシンキングツールを利用して、導入で示された「探究課題」について、考えたことを自分の言葉でまとめる学習活動を設定している。
- 視点⑥の工夫として、「まとめの活動」の中に、「みんなでチャレンジ」を設け、グループで活動する課題を設け、論述したり、意見交換したりする学習活動を設定している。

以上のおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「地域の実態や課題を調べる学習に適した地域である」という実態や、生徒の「地図や諸資料を有効に活用して事象を説明する力に課題が見られる」、「自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする力に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 地理的分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点②の工夫として、中項目「世界の諸地域」の、各小項目の最後に「節の学習を振り返ろう」を設け、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行い、ステップ1からステップ2を通して、州の特色を考える課題を掲載し、ステップ3では、発展的な課題として、持続可能な社会に向けて考える学習活動を設定している。
- 視点③の工夫として、「探してみよう」を設け、小学校で学習したことを振り返る学習活動を設けている。
- 視点③の工夫として、特設ページ「地域の在り方を考える」を設け、小項目で学習した内容を深め、身近な問題として捉えることのできる学習課題を掲載している。
- 視点④の工夫として、「節の学習を振り返ろう」を設け、「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しようにおいて、関連が深い見方・考え方を掲載している。
- 視点⑤の工夫として、資料を有効に活用するために、コラム「技能をみがく」を設け、地図帳の使い方等の基礎的な技能を身に付ける学習活動を設定している。また、「スキルアップ」では、統計資料の使い方などの技能を身に付ける学習活動を設定している。
- 視点⑥の工夫として、「節の学習を振り返ろう」を設け、導入で示された「節の問い」について、ステップ1からステップ3で考えたことを、自分の言葉でまとめる活動を設定している。また、ステップ3ではグループで活動する課題を設け、論述したり、意見交換したりする学習活動を設定している。

以上のとおり、帝国書院の教科書は、1(1)に記した、本市の「地域の実態や課題を調べる学習に適した地域である」という実態や、生徒の「地図や諸資料を有効に活用して事象を説明する力に課題が見られる」、「自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする力に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科、地理的分野で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕種目〔歴史的分野〕

4 教科 [社会] 種目 [歴史的分野]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書(教科 [社会] 種目 [歴史的分野])」(以下、「報告書」という。)並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者(7者)の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 人類史上最初の被爆都市であり、原爆ドームなど平和の原点となる場所や、歴史的建造物や遺構などが多数存在すること
- 身近な地域の調査や体験活動を通して、歴史を直接感じることができる地域であること
- 歴史的事象を多面的・多角的に考察する力に課題が見られること
- 歴史に見られる課題を把握し、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点②「国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫」(古代・中世(報告書において、同時代は日本が国家を形成し、発展させていく上で、特に東アジアとの深い関わりが見られた時代であるため))
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点4「内容の表現・表記」、視点⑦「本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方」(特に原爆被害、復興、平和発信に関することなどを取り上げて記載)
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

2 各発行者の特徴(抜粋)

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点②「国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「古代までの日本」、「中世の日本」において、特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「大陸の玄関口・福岡」を掲載している。また、「もっと歴史」に、「東アジア世界の国々の交流と琉球文化」を掲載している。 ○ 中項目「古代までの日本」の最後の「基礎・基本のまとめ」で、基礎的な語句の確認に表現活動を設けている。また、「まとめの活動」で「探究課題」を解決する活動を設定している。 ○ 特設ページ「資料から発見」を設け、歴史学習に必要な技能を身に付けるために、学習課題を設けている。 ○ コーナー「スキルアップ」を設け、系図やグラフの読み取り方等に関する学習課題を設けている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「古代までの日本」、「中世の日本」において、コラム「歴史の窓」を設け、「宋と高麗」、「一つになるユーラシア世界」等を掲載している。 ○ 中項目「古代までの日本」の最後の「学習のまとめと表現」で、基礎的な語句の確認等を行い、「原始・古代の時代の特色を考えよう」という活動を設定している。 ○ 特設ページ「歴史の技」を設け、歴史学習に必要な技能を身に付けるための学習課題を設けている。

帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「古代までの日本」、「中世の日本」において、特設ページ「歴史を探ろう」を設け、「東アジアに開かれた窓口 博多」を掲載している。また、コラム「未来に向けて」に、「東アジアの美、磁器」等を掲載している。 ○ 中項目「古代までの日本」の最後の「章の学習を振り返ろう」で、基礎的な語句の確認等を行い、時代の特色を穴埋め形式で解決する活動を設定している。 ○ コラム「技能をみがく」を設け、歴史学習に必要な技能を身に付けるための学習課題を設けている。
山川出版社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「古代までの日本」、「中世の日本」において、特設ページ「歴史へのアプローチ」を設け、「中国の記録に見る日本列島」、「東西ユーラシアの動き」等を掲載している。 ○ 中項目「古代までの日本」の最後の「まとめ」で、基礎的な語句の確認等を行う活動を設定している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「古代までの日本」、「中世の日本」において、特設ページ「歴史を掘り下げる」を設け、「朝貢・冊封とは何か」を掲載している。また、コラム「地域に学ぶ」に、「久米村でつくられた外交文書」等を掲載している。 ○ 中項目「古代までの日本」の最後の「学習の整理と活用」で、基礎的な語句の確認等を行い、「アクティビティ」で、時代の特色を考える活動を設定している。 ○ コーナー「スキルアップ」を設け、歴史学習に必要な技能を身に付けるための学習課題を設けている。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「古代までの日本」、「中世の日本」において、特設ページ「このころ世界は」を設け、「ローマ帝国と日本の古墳時代」、「ユーラシアを一つにつないだモンゴル」等を掲載している。 ○ 中項目「古代までの日本」の最後の「学習のまとめ」で、基礎的な語句の確認等を行い、時代の特色をノートに記述する活動を設定している。
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「古代までの日本」、「中世の日本」において、コラムで「稲作のはじまりと広がり」、「朝鮮の使節が見た日本の農業」等を掲載している。 ○ 中項目「古代までの日本」の最後の「第〇章をふりかえる」で、基礎的な語句の確認等を行い、「学習のまとめ」で、学習してきたことを記述する活動を設定している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目の冒頭に、「導入の活動」を設け、「平城京が造られた背景にせまろう」等のグループで話し合う課題を、写真やイラスト、年表などとともに掲載している。 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目の冒頭に、中項目の課題とともに、各小項目の課題を「探究のステップ」として段階的に示している。 ○ 中項目の最後に、「基礎・基本のまとめ」を設け、語句等の確認を行い、中項目の課題を「探究のステップ」と示し、2～4ステップで、段階的に探究課題を解決するような学習活動を設定している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目の冒頭に、「学習を始めよう」を設け、「社会はどのように変化したのか、予想してみよう」等の課題を、写真やイラスト、年表などとともに掲載している。 ○ 学習の見通しを立てられるよう、対応する小項目の冒頭に、中項目の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、語句等の確認を行い、文化について説明する活動や、時代の特色を振り返る学習活動を設定している。

帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目の冒頭に、「タイムトラベル」を設け、「前の時代と比べて特色を考えよう」等の課題を、写真やイラスト、年表などとともに掲載している。 ○ 学習の見通しを立てられるよう、対応する小項目の冒頭に、中項目の課題とともに、小項目の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「章の学習を振り返ろう」を設け、語句等の確認を行い、3ステップで段階的に考えを整理したり、話し合いをしたりしながら、中項目の課題解決を行う学習活動を設定している。
山川出版社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目の冒頭に、関連する写真やイラスト、年表などを掲載している。 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目の冒頭に、中項目の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「まとめ」を設け、語句等の確認や、「まとめてみよう」、「考えてみよう」等の学習内容を振り返る学習活動を設定している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目の冒頭に、「地図で見る世界の動き」を設け、「地図を見比べよう」等のグループで話し合う課題を、写真、イラスト、年表などとともに掲載している。 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目の冒頭に、中項目の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「学習の整理と活用」を設け、語句等の確認を行い、「アクティビティ」で時代の特色を振り返る学習活動を設定している。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目の冒頭に、「鳥の目で見ると」、「虫の目で見ると」を設け、「この絵から、どんなことが分かるかな？」等の課題を、写真やイラスト、年表などとともに掲載している。 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目の冒頭に、中項目の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、語句等の確認を行い、ノートに記述することで、時代の特色を振り返る学習活動を設定している。
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目の冒頭の、扉ページでは、テーマ別にそのテーマに関連した写真を掲載している。 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目の冒頭に、中項目の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「章をふりかえる」を設け、語句等の確認を行い、前の時代と比較しながら、時代の特色を振り返る学習活動を設定している。

(3) 観点4「内容の表現・表記」、視点⑦「本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目(1)古代までの日本、(2)中世の日本において、イラスト・写真188点を掲載している。 ○ 原爆投下について、本文で説明し、「廃きよになった広島」、「長崎に落とされた原子爆弾」の写真を掲載している。 ○ 特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「広島の復興と平和への思い」をテーマに、「広島市」を取り上げ、広島が復興した背景を追究するために、広島平和記念資料館での調査を基に、平和都市としての広島の課題を考え、将来の広島の構想について話し合う課題解決的な学習活動を設定している。 ○ 35件のウェブコンテンツにアクセスできるようQRコードを掲載している。また、対応する箇所には「Dマーク」を付している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目(1)古代までの日本、(2)中世の日本において、イラスト・写真187点を掲載している。 ○ 原爆投下について、本文で説明し、「被爆後の広島の街」、「長崎に投下された原子爆弾」の写真を掲載している。 ○ 46件のウェブコンテンツにアクセスできるようQRコードを掲載している。また、対応する箇所には「まなびリンク」を付している。

帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目(1)古代までの日本、(2)中世の日本において、イラスト・写真 236 点を掲載している。 ○ 原爆投下について、本文で説明し、「原子爆弾によって廃墟となった広島」、「長崎に投下された原子爆弾」の写真を掲載している。 ○ 5 件のウェブコンテンツにアクセスできるよう QR コードを関連する箇所に掲載している。
山川出版社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目(1)古代までの日本、(2)中世の日本において、イラスト・写真 198 点を掲載している。 ○ 原爆投下について、本文で説明し、「広島と長崎への原子爆弾の投下」として、「広島の爆心地」、「原爆投下後の長崎」の写真を掲載している。 ○ 特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、「広島」をテーマに取り上げ、原爆の被害や復興等についての学習課題を 8 つ掲載している。 ○ 14 件のウェブコンテンツにアクセスできるよう QR コードを掲載している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目(1)古代までの日本、(2)中世の日本において、イラスト・写真 137 点を掲載している。 ○ 原爆投下について、本文で説明し、「原子爆弾投下 2 か月後の広島」、「長崎に落とされた原爆のきのこ雲」の写真を掲載している。 ○ 14 件のウェブコンテンツにアクセスできるよう QR コードを掲載している。また、対応する箇所にはデジタルマークを付している。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目(1)古代までの日本、(2)中世の日本において、イラスト・写真 125 点を掲載している。 ○ 原爆投下について、本文で説明し、「原爆ドーム」、「原爆で破壊された浦上天主堂」の写真を掲載している。
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目(1)古代までの日本、(2)中世の日本において、イラスト・写真 190 点を掲載している。 ○ 原爆投下について、本文で説明し、「原爆で壊滅した広島市の爆心地付近／原爆ドーム（産業奨励館）」、「原爆のきのこ雲」の写真を掲載している。

(4) 観点 5 「言語活動の充実」、視点 ⑨ 「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するための基礎的・基本的な技能を身に付けるために、「スキルアップ」を掲載している。 ○ 各中項目の最後に、「まとめの活動」を設け、X チャートやマトリックスの思考ツールを用いながら、時代の特色を考察する学習活動を設定している。 ○ 見開きページに、「トライ」を設け、「次の語句を使って説明しましょう」、「20 字程度で説明しましょう」等、論述する学習活動を設定している。 ○ 「みんなでチャレンジ」を随所に設け、「グループで話し合ひましょう」、「クラスで発表し、意見を交換しましょう」等、意見交換をする学習活動を設定している。 ○ 各中項目の最後に「まとめの活動」を設け、その中で、「みんなでチャレンジ」を付し、時代の特色をまとめるために、意見交換をする学習活動を設定している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するための基礎的・基本的な技能を身に付けるために、「歴史の技」を掲載している。 ○ 各中項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、時代の変化に注目して、学習した時代の特色を考察する学習活動を設定している。 ○ 見開きページに、「表現！」を設け、「～について説明しよう」、「話し合おう」等、論述する学習活動を設定している。 ○ 各中項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、時代の変化に注目するために、「話し合ひましょう」等、意見交換をする学習課題を掲載している。

帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するための基礎的・基本的な技能を身に付けるために、「技能をみがく」を掲載している。 ○ 各中項目の最後に、「章の学習を振り返ろう」を設け、自分の考えを整理しながら、時代の特色を考察する学習活動を設定している。 ○ 見開きページに、「説明しよう」を設け、「特徴から説明してみよう」、「理由を説明してみよう」等、論述する学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「多面的・多角的に考えてみよう」を設け、「意見を発表し合おう」、「グループで話し合ってみよう」等、意見交換をする学習活動を設定している。 ○ 各中項目の最後に、「章の学習を振り返ろう」を設け、ステップ2で、「話し合いを通して自分の考えを深めよう」等、意見交換をする学習課題を掲載している。
山川出版社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各中項目の最後に、「まとめ」を設け、表にまとめたり、説明したりするなどの、考察する学習活動を設定している。 ○ 見開きページに、「ステップアップ」を設け、「考えてみよう」、「まとめてみよう」、「調べてみよう」等、論述する学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「歴史を考えよう」を設け、取り上げた課題を話し合いながら、考察するなどの学習活動を設定している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を有効に活用するための基礎的・基本的な技能を身に付けるために、「スキルアップ」を掲載している。 ○ 各中項目の最後に、「学習の整理と活用」を設け、「アクティビティ」で、時代の特色を考察する学習活動を設定している。 ○ 見開きページに、「確認」を設け、「理由を説明しましょう」、「影響について説明しましょう」等、論述する学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「チャレンジ歴史」を設け、「あなたの考えを説明してみよう」等、意見交換をする学習活動を設定している。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、まとめの作業を手がかりにしながら、時代の特色を考察する学習活動を設定している。 ○ 見開きページに、えんぴつのマークを付し、「説明しましょう」、「まとめましょう」等、論述する学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「歴史のターニングポイント」を設け、「それぞれの立場から意見を出し合い、クラスで話し合ってみよう」等、意見交換をする学習活動を設定している。
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各中項目の最後に、「章をふりがえる・部の学習のまとめ」を設け、「前の時代と比べてたりしながら」等発問により、時代の特色を考察する学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「歴史を体験する」を設け、「話し合いましょう」、「対話・討論する」等、意見交換をする学習活動を設定している。 ○ 各中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、「グループやクラスで話し合いましょう」、「発表を聞いて」等、意見交換をする学習活動を設定している。

3 意見

(1) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点②の工夫として、「基礎・基本のまとめ」で、基礎的な語句の確認に表現活動を設けている。また、「まとめの活動」で「探究課題」を解決する活動を設定している。
- 視点②の工夫として、歴史学習に必要な技能を身に付けさせるために、言語活動を含む学習課題を取り入れた特設ページ「資料から発見」を設けている。
- 視点③の工夫として、学習の見通しを立てられるよう、中項目の冒頭に、中項目の課題とともに、各小項目の課題を「探究のステップ」として段階的に示している。
- 視点③の工夫として、各小項目の課題を「探究のステップ」と示し、2～4ステップで段階的に解決していくように示している。

- 視点⑦の工夫として、特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「広島復興と平和への思い」をテーマに、「広島市」を取り上げ、広島が戦後から復興した背景を追究し、現在の広島の課題を考え、将来の広島の構想について話し合う課題解決的な学習活動を設定している。
- 視点⑧の工夫として、各中項目の最後に「まとめの活動」を設け、Xチャートやマトリックスなどの思考ツールを用いながら、時代の特色を考察し、自由に表現する学習活動を設定している。
- 視点⑨の工夫として、「みんなでチャレンジ」を随所に設け、「グループで話し合おう」、「クラスで発表し、意見を交換しましょう」等、意見交換をする学習活動を設定している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「身近な地域の調査や体験活動を通して、歴史を直接感じることができる」という実態や、生徒の「歴史的事象を多面的・多角的に考察する力に課題が見られること」、「課題を把握し、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題が見られること」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 歴史的分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。
(理由)

- 視点②の工夫として、「章の学習を振り返ろう」で、時代の特色を穴埋め形式で表現させる学習課題を設けている。
- 視点②の工夫として、コラム「技能をみがく」を設け、歴史学習に必要な技能を身に付けるための学習課題を設けている。
- 視点③の工夫として、学習の見通しを立てられるよう、対応する小項目の冒頭に、中項目の課題とともに、小項目の課題を示している。
- 視点③の工夫として、中項目の最後に「章の学習を振り返ろう」を設け、3ステップで段階的に課題解決を行う活動を設定している。
- 視点⑨の工夫として、各中項目の最後に「章の学習を振り返ろう」を設け、意見交換をする学習活動を設定している。

以上のとおり、帝国書院の教科書は、1(1)に記した、本市の「身近な地域の調査や体験活動を通して、歴史を直接感じることができる」という実態や、生徒の「歴史的事象を多面的・多角的に考察する力に課題が見られること」、「課題を把握し、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題が見られること」という状況に対しその課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 歴史的分野で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔公民的分野〕

5 教科 [社会] 種目 [公民的分野]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書(教科 [社会] 種目 [公民的分野])」(以下、「報告書」という。)並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者(6者)の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できる地域であること
- 習得した知識を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察・構想したことを説明する力に課題が見られること
- 論拠を基に自分の意見を説明、論述したりする力にも課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「公民として現代社会の見方・考え方の基礎を培うための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「問題解決的な学習を実施するための工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

2 各発行者の特徴(抜粋)

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「公民として現代社会の見方・考え方の基礎を培うための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」で、対立と合意、効率と公正について、本文7ページにわたり説明し、部活動の今後の体育館の使い方を例に、2年前、1年前、現在のそれぞれの状況における解決策を考える学習課題を掲載している。 ○ 各中項目の最後に、「まとめの活動」を設け、中項目「現代社会を捉える枠組み」では、自転車の使用ルールを例に、解決策を考えるようにしている。 ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「まとめの活動」を設け、「みんなでチャレンジ」の中で、「効率」、「公正」の観点から考えさせる学習課題を掲載している。 ○ 公民的な見方・考え方を活用して考察するための学習課題を随所に掲載している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」で、対立と合意、効率と公正について、本文5ページにわたり説明し、合唱コンクールの練習場所のトラブル、ごみ収集所の設置場所を例に、解決策を考える学習課題を掲載している。 ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、「効率と公正」の観点から考えさせる学習課題を掲載している。 ○ 公民的な見方・考え方を活用する学習課題には、「見×考」マークを付している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」で、対立と合意、効率と公正について、本文5ページにわたり説明し、防災備蓄倉庫の新設を例に、状況を確認し、設置場所と掃除規則の解決策を考える学習課題を掲載している。 ○ 特設ページ「アクティブ公民」を設け、ロールプレイングを取り入れながら、解決策を考えるようにしている。 ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「章の学習を振り返ろう」を設け、「対立」、「合意」、「効率」、「公正」を例として、考えさせる学習課題を掲載している。

日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」で、対立と合意、効率と公正について、本文6ページにわたり説明し、合唱コンクールの練習スケジュールを例に、解決策を考えるようにしている。 ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「学習の整理と活用」を設け、「効率」に着目して考えさせる学習課題を掲載している。 ○ 公民的な見方・考え方を活用するための手がかりとして「見方・考え方」マークを付している。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」で、対立と合意、効率と公正について、本文4ページにわたり説明し、体育館の使い方を例に掲載している。 ○ 特設ページ「アクティブに深めよう」を設け、よりよいまちづくりの具体的方策について考えるようにしている。 ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「学習のまとめと発展」を設け、「公正と効率」の観点から考えさせる学習課題を掲載している。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」で、対立と合意、効率と公正について、本文4ページにわたり説明し、昼休みのグラウンドの使い方を例に、解決策を考えるようにしている。 ○ 中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「学習のまとめ」を設け、重要語句の確認の中に「対立・合意」、「効率・公正」を掲載している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各大項目の冒頭に、関連する写真やイラストと、小学校の社会で習ったことばを掲載している。また、導入の活動として、関連する学習課題を掲載している。 ○ 大項目の学習課題を「探究課題」と示し、中項目の学習課題を「探究のステップ」と示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。 ○ 各大項目の最後に、「探究のステップの問いを解決しよう」を設け、シンキングツールを利用し、各中項目を振り返る学習活動を設定している。 ○ 各大項目の最後に、「基礎・基本のまとめ」を設け、言語活動を取り入れて語句の確認を行い、「まとめの活動」では、「導入の活動」で示された課題と関連している新たな学習課題について、これまで学習してきた内容や、さまざまな見方・考え方を生かして取り組む学習活動を設定している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各大項目の冒頭に、関連する写真を掲載している。また、「学習のはじめに」を設け、導入の活動として、イラストを交えて、関連する学習課題を掲載している。 ○ 大項目の学習課題と、中項目の学習課題を、「学習の見通し」で文章中に示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。 ○ 各大項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、語句の確認などを行い、step 2では、シンキングツールを用いる課題を掲載している。また、step 3では大項目の学習課題に対する自分の考えをまとめる学習活動を設定している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各大項目の冒頭に、「学習の前に」を設け、イラストに関連する学習課題を掲載している。また、「小学校との関連」マークを付し、小学校で学習した内容を掲載している。 ○ 大項目の学習課題を文章中に示し、中項目の学習課題を、「節の問い」と示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。 ○ 各大項目の最後に、「章の学習を振り返ろう」を設け、語句の確認などを行い、「節の問い」を3ステップで段階的に大項目の学習課題を解決する学習活動を設定している。また、「章の学習を振り返ろう」の最後に、「次章への準備」を掲載している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各大項目の冒頭に、「学習のはじめに」を設け、漫画を掲載し、関連する学習課題を掲載している。 ○ 大項目の学習課題を文章中に示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。 ○ 各大項目の最後に、「学習の整理と活用」を設け、「学習内容と語句の整理」で、語句の確認などを行い、シンキングツールを用いた学習活動を設定している。また、「学習の整理と活用」の最後に、「第〇編に向けてのヒント」を掲載している。

自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各大項目の冒頭に、大項目で学習するテーマを文章で記載し、イラストを掲載している。 ○ 大項目の学習課題を文章で示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。 ○ 各大項目の最後に、「学習のまとめと発展」を設け、「学習のまとめ」で、語句の確認などを行い、「学習の発展」では、複数ある課題の中から1つ選び、約400字でまとめる学習活動を設定している。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各大項目の冒頭に、関連する写真を掲載し、小学校で学習した関連する語句を掲載している。また、導入の活動として、関連する学習課題を掲載している。 ○ 大項目の学習課題を文章中に示している。また、小項目ごとに「課題」を掲載している。 ○ 各大項目の最後に、「○○のこれから」を設け、章で学んだことをまとめる課題を設定している。また、「学習のまとめ」を設け、語句の確認などを行う学習活動を設定している。

(3) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「問題解決的な学習を実施するための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目に「どのように」、「どのような」、「なぜ」という課題を示している。 ○ 主に資料に「見方・考え方」を付し、重視する観点等を示し、関連する学習課題を掲載している。 ○ 中項目「よりよい社会を目指して」において、問題解決的な学習を実施するために、複数のテーマの中から解決すべき課題を設定し、資料を集め、探究し、レポートにまとめる構成にしている。 ○ テーマ例として、「環境・エネルギー」、「人権・平和」、「伝統・文化」、「防災・安全」、「情報・技術」を示している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目に「どのように」、「どのような」、「なぜ」という課題を示している。 ○ 主に学習課題に「見方・考え方」を付している。 ○ 中項目「よりよい社会を目指して」において、問題解決的な学習を実施するために、テーマを選び、私の提案としてのレポートにまとめる構成にしている。 ○ テーマ例として、「環境・資源」、「平和・人権」、「経済」、「健康」、「教育・文化」、「情報」、「犯罪」を示している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目に「どのように」、「どのような」という課題を示している。 ○ 中項目「よりよい社会を目指して」において、問題解決的な学習を実施するために、課題を設定し、資料を収集し、考察し、レポートにまとめる構成にしている。 ○ テーマ例として、「現代社会」、「政治」、「経済」、「国際」を示している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目に「どのように」、「どのような」という課題を示している。 ○ 主に小項目の学習課題に「見方・考え方」を付している。 ○ 中項目「よりよい社会を目指して」において、問題解決的な学習を実施するために、テーマを設定し、資料を収集し、考察や構想し、レポートにまとめて、評価する構成にしている。 ○ テーマ例として「伝統・文化」、「政治・経済」、「人権・平和」、「環境・科学・技術」を示している。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目に「どのように」、「どのような」という課題を示している。 ○ 中項目「よりよい社会を目指して」において、問題解決的な学習を実施するために、課題を見つけ、調べ、解決の方法を考え、卒業論文にまとめる構成にしている。 ○ テーマ例として「持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるか」を示している。また、ディベートの設定がある。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目に「どのように」、「どのような」という課題を示している。 ○ 中項目「よりよい社会を目指して」において、問題解決的な学習を実施するために、テーマを決めて、課題探求の計画を立て、プレゼンテーションを行い、内容を見直して、レポートにまとめる構成にしている。 ○ テーマ例として「社会」、「政治・経済」、「国際」、「環境・食料」を示している。

(4) 観点5「言語活動の充実」、観点⑨「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ コラム「スキルアップ」を設け、公民の学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能を身に付ける学習課題を掲載している。 ○ 小項目の「トライ」で、学習内容について、「～を考えましょう」や「～を説明しましょう」等の指示により、考察したり、論述したりする学習活動を設定している。 ○ 「導入の活動」と「まとめの活動」に「みんなでチャレンジ」を設け、グループで協力し、意見交換する学習活動を設定している。 ○ 「みんなでチャレンジ」を随所に設け、政治参加や模擬裁判等の意見交換する学習課題を掲載している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ コラム「公民の技」で個人やグループでの活動を通じて、公民の学習で身に付けたい技能や表現力を身に付ける学習課題を掲載している。 ○ 小項目の「表現」で、学習内容について、「自分の考えを説明しよう」や「意見を交換し合ってみよう」等の指示により、考察したり、論述したりする学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「言葉で伝え合おう」を設け、表現活動を中心とした、テーマ学習を行うことができるような学習活動を設定している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特設ページ「技能をみがく」で、ディベートやKJ法などの分析を深めるための方法を身に付ける学習課題を掲載している。 ○ 小項目の「説明しよう」で、学習内容について、「～を説明してみよう」の前に、多様な発問により、考察したり、論述したりする学習活動を設定している。 ○ 「章の学習を振り返ろう」では、「見方・考え方を働かせて考えよう」のステップ2で、意見交換をする学習活動を設定している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特設ページ「情報スキルアップ」を設け、情報の読み取りや、活用する時に必要な知識・技能を身に付ける学習課題を掲載している。 ○ 小項目の「確認」で、学習内容について、「～を考えてみましょう」や「～を説明してみよう」等の指示により、考察したり、論述したりする学習活動を設定している。 ○ コラム「アクティビティ」で、主体的・対話的な問いを設け、意見交換したりする学習活動を設定している。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目の「やってみよう」で、学習内容について、「～について調べてみよう」や「話し合ってみよう」等の指示により、考察したり、論述したりする学習活動を設定している。 ○ 特設ページ「アクティブに深めよう」を設け、意見を出し合う等の、意見交換したりする学習活動を設定している。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小項目の学習のまとめとして、「～について説明しましょう」や「話し合ってみよう」等の指示により、考察したり、論述したりする学習活動を設定している。 ○ コラム「やってみよう」を設け、「裁判員になって判決を考えよう」等の、意見交換する学習活動を設定している。

3 意見

(1) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 観点①の工夫として、中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「まとめの活動」を設け、「みんなでチャレンジ」の中で、「効率」、「公正」の観点から考えさせる学習課題を掲載している。
- 観点①の工夫として、公民的な見方・考え方を活用して考察するための学習課題を掲載している。
- 観点③の工夫として、大項目の学習課題を「探究課題」と示し、中項目の学習課題を「探究のステップ」と示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。
- 観点③の工夫として、各大項目の最後に、「探究のステップの問いを解決しよう」を設け、シンキングツールを利用し、各中項目を振り返る学習活動を設定している。
- 観点③の工夫として、各大項目の最後に、「基礎・基本のまとめ」を設け、言語活動を

取り入れて語句の確認を行い、「まとめの活動」では、「導入の活動」で示された課題と関連している新たな学習課題について、これまで学習してきた内容や、さまざまな見方・考え方を生かして取り組む学習活動を設定している。

- 視点④の工夫として、主に資料に「見方・考え方」を付し、重視する観点等を示し、関連する学習課題を掲載している。
- 視点⑤の工夫として、「導入の活動」と「まとめの活動」に「みんなでチャレンジ」を設け、グループで協力し、意見交換する学習活動を設定している。
- 視点⑥の工夫として、「みんなでチャレンジ」を随所に設け、政治参加や模擬裁判等の意見交換する学習課題を掲載している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できる地域である」という実態や、生徒の「習得した知識を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察・構想したことを説明する力に課題が見られる」、「論拠を基に自分の意見を説明、論述したりする力にも課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 公民的分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、特設ページ「アクティブ公民」を設け、ロールプレイングを取り入れながら、解決策を考えるようにしている。
- 視点①の工夫として、中項目「現代社会を捉える枠組み」の最後に、「章の学習を振り返ろう」を設け、「対立」、「合意」、「効率」、「公正」を例として、考えさせる学習課題を掲載している。
- 視点③の工夫として、大項目の学習課題を文章中に示し、中項目の学習課題を、「節の問い」と示している。また、小項目ごとに「学習課題」を掲載している。
- 視点③の工夫として、各大項目の最後に、「章の学習を振り返ろう」を設け、語句の確認などを行い、「節の問い」を3ステップで段階的に大項目の学習課題を解決する学習活動を設定している。また、「章の学習を振り返ろう」の最後に、「次章への準備」を掲載している。
- 視点⑥の工夫として、「章の学習を振り返ろう」では、「見方・考え方を働かせて考えよう」のステップ2で、意見交換をする学習活動を設定している。

以上のとおり、帝国書院の教科書は、1(1)に記した、本市の「様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できる地域である」という実態や、生徒の「習得した知識を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察・構想したことを説明する力に課題が見られる」、「論拠を基に自分の意見を説明、論述したりする力にも課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 公民的分野で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕種目〔地図〕

6 教科 [社会] 種目 [地図]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [社会] 種目 [地図]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（2者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 豊かな自然環境に恵まれ、太田川のデルタ地形に位置し、自然災害等の発生しやすい地域であること
- 第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、地理的・歴史的分野における地域調査や体験活動を行うことに適している地域であること
- 地図や諸資料を有効に活用して事象を説明することに課題が見られること
- 自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする方に課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「学び方・調べ方の題材やその手順の示し方」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページで「日本列島」の地図を、次の見開き2ページで「南西諸島と各群島・列島等」の地図を順に掲載している。 (縮尺：日本列島・南西諸島 550 万分の1、沖縄島 50 万分の1、各群島・列島等 100 万分の1) ○ 「日本の周辺」の地図で、日本の東西南北の最端を地図と写真で示し、竹島と尖閣諸島も地図と写真で示している。また、竹島の地図を「中国・四国地方」、北方領土を含む千島列島の地図を「北海道地方」のページで拡大して掲載している。 ○ 「日本と朝鮮半島との歴史的なつながり」について、朝鮮半島・日本で発掘された遺物を比較する写真を掲載している。 ○ 「九州地方」で、「歴史の舞台・九州地方」として、九州地方が古代から近代にかけて歴史の舞台となったことを示す地図・写真等の資料を掲載している。 ○ 「近畿地方」で、近畿地方のテーマ資料として「江戸時代の大阪」の地図や京都・奈良・神戸の「主な文化財と観光地」の地図を掲載している。 ○ 「東北地方」で、東北地方のテーマ資料として「東日本大震災による被害」について、写真と浸水域を示した地図を掲載している。 ○ 「日本と世界との関係（古代～近世）」について、歴史的な視点からの地図・古図・絵画・写真等の資料を掲載している。 ○ 「日本の自然環境（災害・環境問題）」の2ページで、ハザードマップ例と自然災害の状況を示す写真を掲載している。 ○ 「日本」の各地方地図に、等高段彩図を用いている。 ○ 巻末に「旧国名 1868（明治元）年」の地図を掲載している。
------	---

帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 折込見開き3ページで「南西諸島と各群島・列島等」の地図を、次の3ページで「日本列島」の地図を順に掲載している。 (縮尺：日本列島・南西諸島 400 万分の1、沖縄島、各群島・列島等 100 万分の1) また、そのうち1ページ分で、「南西諸島を中心とした日本列島周辺図」、「沖縄島の土地利用図」、「那覇市中心部地図」を掲載している。 ○ 「日本の領土とその周りの国々」の地図で、日本の東西南北の最端を地図と写真で示している。また、尖閣諸島・竹島・国後島の写真を「日本列島」の折込地図に掲載している。また、竹島の地図を「中国・四国地方」、北方領土を含む千島列島の地図を「北海道地方」のページで拡大して掲載している。 ○ 「北海道地方」のページでは、「北方領土」の問題にかかわる日本とロシア・ソ連の国境の変遷を示す地図を掲載している。 ○ 東アジアと日本の交流の歴史のページを設け、大陸から見た日本の地図を示し、交流の様子を写真とイラストで掲載している。 ○ 「九州地方」で、「火山災害への備え—島原半島—」の鳥瞰図を「防災」に係る資料として掲載している。 ○ 「近畿地方」で、「江戸時代の大阪」の地図や京都・奈良・大阪の文化財や観光地の地図・写真を掲載している。さらに明日香村周辺の写真と斑鳩の文化財等を示した地図を掲載している。 ○ 「東北地方」で、東北地方の資料として「震災の被害と復興」について、震災前・震災直後・復興中の模式図を掲載している。 ○ 「大阪湾周辺の地形～地形と歴史・防災」、「東京都周辺の地形～水と人との関わり・防災～」、「本州中央部と五街道」、「江戸」等、歴史的な視点から地図・年表・グラフ等の資料を掲載している。 ○ 「日本の自然災害・防災」の2ページで、ハザードマップ例と自然災害に対する備えの模式図を掲載している。 ○ 「日本」の各地方地図に、等高段彩図に加えて主な尾根線を描いている。 ○ 巻末に「旧国名 1868 (明治元) 年」の地図を掲載している。
------	---

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、観点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州で、海洋を含む鳥瞰図を掲載している。 ○ 日本の各地方の基本資料として、各地方の地図と一部拡大地図に続いて、「基礎資料」として生活・産業などのイラストを配した鳥瞰図（自然環境）と2点間の断面図、土地利用・降水量を示した地図を掲載している。さらに「テーマ資料」として、各地方の特徴となるテーマを設定した資料を掲載している。 ○ 世界の各州で、その州に位置する国の国旗を掲載している。 ○ 「世界の資源・エネルギー」で「夜の地球」の画像を掲載している。 ○ 巻末に「都道府県の産品と各所・お国自慢など」を都道府県章とともに掲載している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の各州で、生活・産業・著名な建築物などのイラストを配した鳥瞰図を掲載している。 ○ 「日本」の各地方で、各地方の地図と一部拡大地図に続いて、「資料」として自然についての地図と2点間の断面図、降水量・人口分布・農業・工業、交通を同じ形式で掲載している。また、地方ごとの特色を示す地図と防災にかかわる地図資料を掲載している。 ○ 世界の各州の地図に、同縮尺・同緯度・同経度の日本を示している。 ○ 世界の各州で、その州に位置する国の国旗を掲載している。 ○ 「世界と日本の鉱産資源」で「宇宙から見た夜の日本列島付近」の画像を掲載している。 ○ 「日本の生活・文化」のページに、各地方の特色のある祭りや、日本の伝統的な料理を掲載している。

(3) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、観点④「学び方・調べ方の題材やその手順の示し方」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「この地図帳の地図記号」、「この地図帳の活用方法」で、3ページにわたり地図記号や地図、資料の見方を説明している。 ○ 資料の読み取りのポイントや見方・考え方（考察の視点）を示すためにキャラクターを設定し、吹き出しにより課題を提示している。 ○ 別ページにある、関連する資料に、「ジャンプ」というマークを付している。 ○ 世界と日本を分けた「世界の地名」、「日本の地名」と「資料さくいん」を設けている。また、「資料さくいん」には「歴史」の項目を設けている。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「この地図帳の凡例」、「地図帳の使い方(1)(2)」、「国土地理院の地形図」で、5ページにわたり地図記号や地図、資料の見方、地形図の主な記号について説明している。 ○ 地図活用の技能を身に付けるための「地図活用」のコーナーを設定し、課題を提示している。さらに、さまざまな所に、資料図を見るときに着眼点を示した「学習課題」のコーナーを設定している。 ○ 別ページにある、関連する資料のページ数を、マークで示している。 ○ 世界と日本を分けた「さくいん」を設け、さくいんの引き方について説明するコーナーを設けている。

(4) 観点5「言語活動の充実」、観点⑧「様々な資料を有効に活用し、考察したり、論述したり、意見交換したりするための学習活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「キャラクターの吹き出し」により、学習内容を深める活動を掲載している。 ○ 「日本の人口」のページでは、「人口が増えている所にはどんな特徴があるのかな。」、「この見開きページにある資料をあわせて読み取って、日本の人口が今後どうなっていくかを考えましょう。」を「キャラクターの吹き出し」で示している。 ○ 「現代的な諸課題②人口・貧困問題」のページで、「キャラクターの吹き出し」として「カロリー摂取量の少ない地域はどの辺りに広がっているのかな。」を示している。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習課題」と「地図活用」のマークがある箇所問いにより、学習内容を深める活動を掲載し、「地図活用」のコーナーでは、基礎的な知識・技能を確認する問いや、「クラスで発表しよう」、「説明しよう」等の言語活動を含む学習課題を掲載している。 ○ 「世界と日本の人口」のページで、「世界の人口増加率の図で人口増加が著しいアフリカの国々の人口構成の特徴を、おもな国の人口ピラミッド・世界の老年人口の割合の図から考え説明しよう。」、「日本の人口増加率の図で人口が増加している都道府県は、老年人口の割合にどのような特徴がみられるか、老年人口の割合の図を参考にして考えよう。」を「地図活用」として示している。 ○ 「世界と日本の人口」のページでは、「学習課題」として「世界と日本の人口分布にはどのような特徴があり、今後どのように推移していくだろうか。」を示している。

3 意見

(1) 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 観点①の工夫として、折込見開き3ページで「南西諸島と各群島・列島等」の地図を、次の3ページで「日本列島」の地図を順に掲載している。また、日本列島・南西諸島の縮尺を400万分の1、沖縄島、各群島・列島等の縮尺を100万分の1としている。
- 観点①の工夫として、「北海道地方」のページでは、「北方領土」の問題にかかわる日本とロシア・ソ連の国境の変遷を示す地図を掲載している。
- 観点①の工夫として、東アジアと日本の交流の歴史のページを設け、大陸から見た日本の地図を示し、交流の様子を写真とイラストで掲載している。

- 視点③の工夫として、世界の各州の地図に、同縮尺・同緯度・同経度の日本を示している。
- 視点③の工夫として、「日本」の各地方で、各地方の地図と一部拡大地図に続いて、「資料」として自然についての地図と2点間の断面図、降水量・人口分布・農業・工業、交通を同じ形式で掲載している。また、地方ごとの特色を示す地図と防災にかかわる地図資料を掲載している。
- 視点④の工夫として、地図活用の技能を身に付けるための「地図活用」のコーナーを設定し、課題を提示している。さらに、さまざまな所に、資料図を見るときに着眼点を示した「学習課題」のコーナーを設定している。
- 視点⑧の工夫として、「学習課題」と「地図活用」のマークがある箇所の間により、学習内容を深める活動を掲載し、「地図活用」のコーナーでは、基礎的な知識・技能を確認する問いや、「クラスで発表しよう」、「説明しよう」等の言語活動を含む学習課題を掲載している。

以上のとおり、帝国書院の教科書は、1(1)に記した、本市の「豊かな自然環境に恵まれ、太田川のデルタ地形に位置し、自然災害等の発生しやすい地域である」という実態や、生徒の「地図や諸資料を有効に活用して事象を説明することに課題が見られる」、「自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする力に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 地図で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、見開き2ページで「日本列島」の地図を、次の見開き2ページで「南西諸島と各群島・列島等」の地図を順に掲載している。また、日本列島・南西諸島の縮尺を550万分の1、沖縄島の縮尺を50万分の1、各群島・列島等の縮尺を100万分の1としている。
- 視点①の工夫として、「日本と朝鮮半島との歴史的なつながり」について、朝鮮半島・日本で発掘された遺物を比較する写真を掲載している。
- 視点③の工夫として、日本の各地方の基本資料として、各地方の地図と一部拡大地図に続いて、「基礎資料」として生活・産業などのイラストを配した鳥瞰図（自然環境）と2点間の断面図、土地利用・降水量を示した地図を掲載している。さらに「テーマ資料」として、各地方の特徴となるテーマを設定した資料を掲載している。
- 視点④の工夫として、「この地図帳の地図記号」、「この地図帳の活用方法」で、3ページにわたり地図記号や地図、資料の見方を説明している。
- 視点⑧の工夫として、「キャラクターの吹き出し」により、学習内容を深める活動を掲載している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「豊かな自然環境に恵まれ、太田川のデルタ地形に位置し、自然災害等の発生しやすい地域である」という実態や、生徒の「地図や諸資料を有効に活用して事象を説明することに課題が見られる」、「自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする力に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、社会科 地図で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔数学〕 種目〔数学〕

7 教科 [数学] 種目 [数学]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [数学] 種目 [数学]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（7者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 事象を数学的に解釈し、図表やグラフなどを適切に用いて論理的に考えたり、数学的な表現を用いて説明したりする力に課題が見られること
- 正答率30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要であること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点②「基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「問題解決的な学習を実施するための工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点②「基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目次に「前の学習」の欄を設けている。 ・ 側注に「ちょっと確認」の欄を設けている。 ・ 巻末の「学びのつながり」で、既習事項のまとめを掲載している。 ○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節末に「基本の問題」を設けるとともに、関連ページと例の番号を示している。 ・ 各章末に「章の問題A」を設けている。 ○ 巻末の「補充の問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの間の番号を示している。また、少し難しい問題に「★」マークを付けている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目次に「これまでに学んだこと」の欄を設けている。 ・ 側注に「思い出そう」の欄を設けている。 ・ 巻末の「小学校算数のふり返し」や「〇年の復習」で、既習事項のまとめと問題を掲載している。 ○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節末に「たしかめよう」を設けるとともに、関連ページを示している。 ・ 各章末に「〇章をふり返ろう」を設けている。 ○ 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や間の番号を示している。

学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目次に「〇〇で学んだこと」の欄を設けている。 ・ 側注に「ふりかえり」の欄を設けている。 ・ 各領域の前に「ふりかえり」のページを設けている。 ・ 第1学年の巻末の「小学校の計算」や第2学年、第3学年の巻末の「〇年の計算」で、既習事項に関する問題を掲載している。 ○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節末に「確かめよう」を設けるとともに、関連ページの例や問の番号を示している。 ・ 各章末に「〇章のまとめの問題」を設けている。 ○ 巻末の「〇年の復習」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基礎・基本となる問題」には「4」マークを付けている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目次に「ふりかえり」の欄を設けている。 ・ 側注に「もどって確認」の欄を設けている。 ・ 各章の前に「〇〇を学習する前に」というコーナーを設けている。 ・ 巻末の「学びのマップ」で、既習事項のまとめを掲載している。 ○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節末に「基本の問題」を設けるとともに、関連ページの例や例題の番号を示している。 ・ 各章末に「章の問題」を設けている。 ○ 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの問の番号を示している。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 側注に「ふりかえり」の欄を設けている。 ・ 第1学年の巻末の「算数をふりかえろう」や第3学年の巻末の「力をつけよう」で、既習事項に関する問題を掲載している。 ○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節末に「練習問題」を設けている。 ・ 各章末に「学びをたしかめよう」を設けるとともに、関連ページを示している。 ○ 巻末の「力をつけよう」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。
数研出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 側注に「ふりかえり」の欄を設けている。 ・ 各章の前に「ふりかえり」のページを設けている。 ・ 第1学年の巻末の「中学1年のまとめ」や第2学年、第3学年の巻末の「中学〇年までのまとめ」で、当該学年の内容と既習の内容のまとめを合わせて掲載している。 ○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節末に「確認問題」を設けるとともに、関連ページを示している。 ・ 各章末に「問題A」を設けている。 ○ 巻末の「ぐんぐんのばそうチャレンジ編」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページを示している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目次に「これまでに学んだこと」の欄を設けている。 ・ 側注に「確かめ」の欄を設けている。 ・ 各章の前に「次の章を学ぶ前に」のページを設けている。 ・ 第1学年の巻頭に「算数の確かめ」や、各学年の巻末に「〇年の復習」等、既習事項に関するまとめや問題を掲載している。 ○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節末に「基本の問題」を設けるとともに、関連ページと例の番号を示している。 ・ 各章末に「〇章の問題」を設けている。 ○ 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や問の番号を示している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、観点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<p>○ 興味・関心を持たせるために、日常生活や社会と関連する題材を各章の導入で扱っている。</p> <p>【題材例】</p> <p>第1学年「データの分析と活用」 過去と現在のサッカーチームの選手の体力</p> <p>第2学年「データの比較」 花見時期とその直前時期のコンビニエンスストアのスナック菓子販売数</p> <p>第3学年「標本調査」 卒業ソングランキング</p> <p>○ 各内容のはじめに学習の目標を示し、枠で囲んでいる。</p> <p>○ 章の途中に「学びをふり返ろう」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○ ノートの書き方例の中で、「まとめ」や「感想」の書き方例を示している。</p>
大日本図書	<p>○ 興味・関心を持たせるために、日常生活や社会と関連する題材を各章の導入で扱っている。</p> <p>【題材例】</p> <p>第1学年「データの分析」 2人の10cmの長さの感覚</p> <p>第2学年「データの比較と箱ひげ図」 2002年と2014年の岐阜市の平均気温</p> <p>第3学年「標本調査」 青少年のインターネット利用に関する調査、多摩市の世論調査</p> <p>○ 各内容のはじめに学習の目標を示し、「めあて」のマークを付けている。</p> <p>○ 学習の区切りや各章末に「学びのふり返り」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○ ノートの書き方例の中で、「ふり返り」の書き方例を示している。</p>
学校図書	<p>○ 興味・関心を持たせるために、日常生活や社会と関連する題材を各章の導入で扱っている。</p> <p>【題材例】</p> <p>第1学年「データの活用」 A組とB組のルーラーキャッチの記録</p> <p>第2学年「データの分布」 6都市の降水量</p> <p>第3学年「標本調査」 テレビの視聴率、新体力テスト、川の水質調査、飛行機の手荷物検査、世論調査</p> <p>○ 本文中の「おしえて！」の欄で、学習の中で生徒が感じる疑問を取り上げ、その後のページの「Tea Break」で発展的な内容にも触れながら解説している。</p> <p>○ 各内容の導入の発問の後に学習の目標を示し、枠で囲み鍵穴マークを付けている。</p> <p>○ 学習の区切りに「どんなことがわかったかな」や各章末に「○章『◇◇◇』を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、次の内容につなげる疑問を「次の課題へ！」で示している。</p> <p>○ ノートの書き方例の中で、「まとめ」や「感想」の書き方例を示している。</p>

教育出版	<p>○ 興味・関心を持たせるために、日常生活や社会と関連する題材を各章の導入で扱っている。</p> <p>【題材例】</p> <p>第1学年「データの分析」 2つのバスルートの所要時間</p> <p>第2学年「データの分析」 7月と8月の最高気温</p> <p>第3学年「標本調査」 テレビの視聴率、湖の水質検査、空港の手荷物検査、学校の歯科検診、米の品質検査</p> <p>○ 各項のはじめに学習の目標を示している。</p> <p>○ 各章末に「○章学習のまとめ」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○ ノートの書き方例の中で、「感想」の書き方例を示している。</p>
新興出版社啓林館	<p>○ 興味・関心を持たせるために、日常生活や社会と関連する題材を各章の導入で扱っている。</p> <p>【題材例】</p> <p>第1学年「データの活用」 紙吹雪の形や大きさを変えたときの滞空時間</p> <p>第2学年「箱ひげ図とデータの活用」 4社のインターネットの通信速度</p> <p>第3学年「標本調査」 都道府県別の睡眠時間ランキング</p> <p>○ 各内容のはじめに学習の目標を示し、■マークを付けている。</p> <p>○ 巻末に「学びのあしあと」のコーナーを設け、各章の学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○ ノートの書き方例の中で、自分で考えたことや疑問に思ったことの書き方例を示している。</p>
数研出版	<p>○ 興味・関心を持たせるために、日常生活や社会と関連する題材を各章の導入で扱っている。</p> <p>【題材例】</p> <p>第1学年「データの活用」 居住地別の国内旅行の行き先</p> <p>第2学年「データの活用」 小中学生の全国体力テストの結果</p> <p>第3学年「標本調査」 缶詰工場の出荷前の検査</p> <p>○ 各内容のはじめや途中で学習の目標を示し、旗マークを付けている。</p> <p>○ 巻末に各学年までのまとめや「学びの自己評価」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○ ノートの書き方例の中で、「考えたこと」や「感想」の書き方例を示している。</p>
日本文教出版	<p>○ 興味・関心を持たせるために、日常生活や社会と関連する題材を各章の導入で扱っている。</p> <p>【題材例】</p> <p>第1学年「データの活用」 高知市の3月の平均気温</p> <p>第2学年「データの分析と確率」 3都市の猛暑日</p> <p>第3学年「標本調査」 国勢調査、学校の歯科検診、テレビの視聴率、米の品質調査、飛行機の手荷物検査</p> <p>○ 各内容のはじめや導入の発問の後に学習の目標を示し、「めあて」のマークを付けている。</p> <p>○ 巻末に「図形のまとめ」のコーナーを設け、図形領域の学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○ ノートの書き方例の中で、振り返りの書き方例を示している。</p>

(3) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「問題解決的な学習を実施するための工夫」

東京書籍	<p>○ 各章の「～の利用」の節等で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を取り扱っており、問題解決の過程を示すとともに、過程に沿った問を設けている。また、巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、問題解決の過程について説明している。</p> <p>例：第2学年「1次関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「問題をつかむ」 ・ 「見通しをたてる」（「自分で考えてみよう」）（「友達の考えを知ろう」） ・ 「問題を解決する」（「話し合ってみよう」） ・ 「ふり返る」 ・ 「深める」 <p>○ 巻末の「数学の自由研究」に、各章で学んだことを活用する問題を掲載している。</p> <p>○ 数学的な見方・考え方を働かせている箇所に虫眼鏡マークを付けて示している。また、巻末の「大切にしたい見方・考え方」で、「～の利用」の節等で扱った問題を取り上げ、どのような見方・考え方を働かせて問題を解決したかを振り返っている。</p>
大日本図書	<p>○ 各章の「～の利用」の節等で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を取り扱っており、問題解決の過程を示すとともに、過程に沿った問を設けている。また、巻頭の「数学の世界へようこそ」で、問題解決の過程について説明している。</p> <p>例：第2学年「1次関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「問題を見いだそう」 ・ 「解決のしかたを探ろう」 ・ 「解決しよう」 ・ 「深めよう」 <p>○ 巻末の「もっと数学へ」に、各領域で学んだことを活用する問題を掲載している。</p> <p>○ 巻頭の「数学の世界へようこそ」で、数学的な見方・考え方を働かせる例を示している。</p>
学校図書	<p>○ 各章の「～の利用」の節等で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を取り扱っており、問題解決の過程を示すとともに、過程に沿った問を設けている。また、巻頭の「この教科書を使った数学の学び方」で、問題解決の過程を示している。</p> <p>例：第2学年「1次関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「問題を見つけよう」 ・ 「実験をして考えよう」 ・ 「説明しよう」 ・ 「式に表して考えよう」 ・ 「新たな問題を見つけよう」 ・ 「時間と水温の関係を調べよう」 <p>○ 巻末の「さらなる数学へ」に、学んだことを活用する問題を掲載している。</p> <p>○ 巻末に、SDGsの特設ページを設け、複数のデータを分析し、国際的な課題を見いだし、自分たちにできることは何かを考える活動を設定している。また、学習の最後に自己評価表を掲載し、1年間の学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○ 側注の「!見方・考え方」の欄で、どのような数学的な見方・考え方を働かせるかを示している。また、巻末の「『見方・考え方』をまとめよう」で、導入の「Q」で扱った問題を取り上げ、どのような見方・考え方を働かせたかを問題解決の流れの図に添えて示している。</p>

教育出版	<p>○ 各章の「～の活用」の節等で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を取り扱っており、問題解決の過程を示すとともに、過程に沿った問を設けている。また、巻頭の「学習するにあたって」で、問題解決の過程について説明している。</p> <p>例：第2学年「1次関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「問題をつかもう」 ・ 「自分の考えをもとう」 ・ 「みんなで話し合おう」 ・ 「ふり返ろう」 ・ 「深めよう」 <p>○ 巻末の「学んだことを活用しよう」に、各章で学んだことを活用する問題を掲載している。</p> <p>○ 側注の「数学的な考え方」の欄で、どのような数学的な見方・考え方を働かせるかを示し、説明を加えている。また、巻頭の「数学的な考え方」で、既習の問題を取り上げ、数学的な考え方をキャラクターの吹き出しを添えて紹介している。</p>
新興出版社啓林館	<p>○ 各章の「～の利用」の節等で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を取り扱っており、問題解決の過程を示すとともに、過程に沿った問を設けている。また、巻頭の「みんなで学ぼう編の構成と使い方」で、問題解決の過程について、例示して説明している。</p> <p>例：第2学年「1次関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ステップ1 場面の状況を整理し、問題を設定しよう」 ・ 「ステップ2 見通しを立てて、問題を解決しよう」 ・ 「ステップ3 問題をひろげたり、深めたりしてみよう」 <p>○ 巻末の「力をつけよう」や「学びをいかそう」に、各章で学んだことを活用する問題を掲載している。</p> <p>○ 学習の中で働かせた数学的な見方・考え方をページ下部に虫眼鏡マークを付けて示している。また、巻末の「学びのあしあと」で、それぞれの章で働かせた見方・考え方の1つを取り上げて紹介している。</p>
数研出版	<p>○ 各章の「～の利用」の節等で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を取り扱っており、問題解決の過程を、先生と数人の生徒の対話で示している。</p> <p>例：第2学年「1次関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「時間と水温の間には、どのような関係があるのかな？」 ・ 「1分ごとの水温の変化を調べてみよう。」 ・ 「グラフ上に点をとって調べてみよう。」 ・ 「時間と水温の関係がわかると、6分後の水温も予想できそうですね。」 <p>○ 別冊に、各章で学んだことを活用する問題を掲載している。また、別冊にはワークシートを掲載している。</p> <p>○ 数学的な見方・考え方を働かせる場面を、生徒や先生の対話で示している。また、巻頭の「学習の進め方」で、よく使う数学的な見方・考え方を紹介している。</p>
日本文教出版	<p>○ 各章の「～の活用」の節等で、学習したことを活用し、身近な問題を解決する活動を取り扱っており、問題解決の過程を示すとともに、過程に沿った問を設けている。また、巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、問題解決の過程について説明している。</p> <p>例：第2学年「1次関数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「見通しをもとう」 ・ 「考えよう」 ・ 「話し合おう」 ・ 「ふり返ろう」 ・ 「深めよう」 <p>○ 巻末の「数学マイトライ」に、学んだことを活用する問題を掲載している。</p> <p>○ 側注の「大切な見方・考え方」の欄で、どのような数学的な見方・考え方を働かせるかを示し、具体例や説明を加えている。</p>

(4) 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、話し合うときのポイントを示している。 ○ 話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面の数 例：第3学年「多項式」 話し合い 1か所 説明 4か所 証明 5か所 ○ 巻頭の「ノートづくり方」で、ノートの書き方のポイントを示すとともに、最初の章の章末の「数学マイノート」で例を示している。 ○ 巻末の「レポートにまとめよう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「数学の世界へようこそ」で、説明や考えを伝え合うポイントを示している。 ○ 話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面の数 例：第3学年「多項式」 話し合い 0か所 説明 7か所 証明 6か所 ○ 巻頭の「ノートの作り方」で、ノートの書き方のポイントと例を示している。 ○ 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末の「表現する力を身につけよう」で、発表のしかたのポイントを示している。また、裏見返しに個人で考察する際や、グループで話し合う際に活用できるアイデアボードを付けている。 ○ 話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面の数 例：第3学年「式の計算」 話し合い 4か所 説明 2か所 証明 11か所 ○ 巻頭の「ノートの使い方」で、ノートの書き方のポイントと例を示している。 ○ 巻末の「表現する力を身につけよう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「学習するにあたって」で、話し合うときのポイントを示している。 ○ 話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面の数 例：第3学年「式の計算」 話し合い 1か所 説明 2か所 証明 7か所 ○ 巻頭の「工夫してノートを書こう」で、ノートの書き方のポイントを示すとともに、1章または2章の章末に、ノートの書き方の例を示している。 ○ 巻末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「表現する力を身につけよう」で、話すとき、聞くときのポイントを示している。 ○ 話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面の数 例：第3学年「式の展開と因数分解」 話し合い 3か所 説明 2か所 証明 7か所 ○ 巻頭の「ノートをくふうして、学習に役立てよう」で、ノートの書き方のポイントと例を示している。 ○ 巻末の「レポート例」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

数 研 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「学習の進め方」で、発表するときやグループで話し合うときのポイントを示している。 ○ 話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面の数 例：第3学年「式の計算」 話し合い 1か所 説明 1か所 証明 6か所 ○ 巻頭の「ノートの作り方」で、ノートの書き方のポイントと例を示している。 ○ 巻頭の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。
日 本 文 教 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「数学の学習を始めよう」で、話し合うときのポイントを示している。また、巻末に該当箇所を活用できる対話シートを付けている。 ○ 話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面の数 例：第3学年「式の展開と因数分解」 話し合い 2か所 説明 1か所 証明 6か所 ○ 巻頭の「ノートの工夫」で、ノートの書き方のポイントと例を示している。 ○ 巻末の「数学レポートをかこう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

3 意見

(1) 学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点②の工夫として、関連付けたり振り返ったりするために、目次、側注、各領域の前及び巻末に既習事項との関連を示している。
- 視点②の工夫として、巻末の「〇年の復習」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基礎・基本となる問題」には「A」マークを付けている。
- 視点③の工夫として、本文中の「おしえて！」の欄で、学習の中で生徒が感じる疑問を取り上げ、その後のページの「Tea Break」で発展的な内容にも触れながら解説している。
- 視点③の工夫として、学習の区切りに「どんなことがわかったかな」のコーナーや、各章末に「〇章『◇◇◇』を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、次の内容につなげる疑問を「次の課題へ！」で示している。
- 視点④の工夫として、巻末に、SDGsの特設ページを設け、複数のデータを分析し、国際的な課題を見だし、自分たちにできることは何かを考える活動を設定している。また、学習の最後に自己評価表を掲載し、1年間の学習を振り返ることができるようにしている。
- 視点④の工夫として、側注の「！見方・考え方」の欄で、どのような数学的な見方・考え方を働かせるかを示している。また、巻末の「『見方・考え方』をまとめよう」で、導入の「Q」で扱った問題を取り上げ、どのような見方・考え方を働かせたかを問題解決の流れの図に添えて示している。
- 視点⑤の工夫として、巻末の「表現する力を身につけよう」で、発表のしかたのポイントを示している。また、裏見返しに個人で考察する際や、グループで話し合う際に活用できるアイデアボードを付けている。
- 視点⑥の工夫として、第3学年の「式の計算」では、話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面を計17か所掲載している。

以上のとおり、学校図書の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「事象を数学的に解釈し、図表やグラフなどを適切に用いて論理的に考えたり、数学的な表現を用いて説明したりする力に課題が見られる」、「正答率30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要である」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、数学科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点②の工夫として、関連付けたり振り返ったりするために、目次、側注及び巻末に既習事項との関連を示している。
- 視点②の工夫として、巻末の「補充の問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの間の番号を示している。また、少し難しい問題に「★」マークを付けている。
- 視点③の工夫として、章の途中に「学びをふり返ろう」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。
- 視点④の工夫として、数学的な見方・考え方を働かせている箇所に虫眼鏡マークを付けて示している。また、巻末の「大切にしたい見方・考え方」で、「～の利用」の節等で扱った問題を取り上げ、どのような見方・考え方を働かせて問題を解決したかを振り返っている。
- 視点⑤の工夫として、巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、話し合うときのポイントを示している。
- 視点⑥の工夫として、第3学年の「多項式」では、話し合いを促す表現や、説明したり証明したりする場面を計10か所掲載している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「事象を数学的に解釈し、図表やグラフなどを適切に用いて論理的に考えたり、数学的な表現を用いて説明したりする力に課題が見られる」、「正答率30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要である」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、数学科で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔理科〕種目〔理科〕

8 教科 [理科] 種目 [理科]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書(教科[理科]種目[理科])」(以下、「報告書」という。)並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者(5者)の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 大雨による土砂災害等の自然災害も多く発生しており、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが必要な地域であること
- 科学的な概念を活用して分析・解釈することに課題があること
- 基礎となる知識及び技能の習得に課題があること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫」
- 観点4「内容の表現・表記」、視点⑥「他教科や日常生活との関連の示し方」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫」

2 各発行者の特徴(抜粋)

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の導入部や本文の側注に、既習事項の確認のため、「これまでに学んだこと」の欄を設けている。 ○ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習をする「章末」を設けている。また、各単元末に、基本事項を確認する「学習内容の整理」と問題演習をする「確かめと応用」を設けている。 ○ つまづきやすい内容には、「例題」、「確認」、「練習」の欄を設けている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の導入部や本文の側注に、既習事項の確認のため、それぞれ「これまでに学習したこと」、「思い出そう」の欄を設けている。 ○ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習をする「章末問題」を設けている。また、各単元末に、基本事項を確認する「まとめ」と問題演習をする「単元末問題」、「読解力問題」を設けている。さらに、3学年の巻末に、問題演習をする「学習のまとめ」を設けている。 ○ つまづきやすい内容には、「例題」、「解答例」、「演習」の欄を設けている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の導入部に、既習事項の確認のため、「ふり返ろう・つなげよう」の欄を設けている。 ○ 各章末に、学習目標を達成できたか振り返る「Can-Do List」を設けている。また、各単元末に、学習内容と日常生活を関連付けて習得させる「学びを日常にいかしたら」を設けている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各章の導入部や本文の側注に、既習事項の確認のため、それぞれ「これまでの学習」、「思い出そう」の欄を設けている。 ○ 各章末に、学習内容を振り返る「要点のチェック」を設けている。また、各単元末に、基本事項を確認する「要点と重要用語の整理」と問題演習をする「基本問題」を設けている。さらに、各学年の巻末に、問題演習をする「学年末総合問題」を設けている。 ○ つまづきやすい内容には、「例題」、「練習」の欄を設けている。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各章の導入部や本文中に、既習事項の確認のため、それぞれ「つながる学び」、「思い出してみよう」の欄を設けている。 ○ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習をする「基本のチェック」を設けている。また、各単元末に、基本事項を確認する「学習のまとめ」と問題演習をする「力だめし」を設けている。さらに、各学年の巻末に、問題演習をする「学年末総合問題」を設けている。そして、3学年の巻末に、問題演習をする「中学校総合問題」を設けている。 ○ つまづきやすい内容には、「例題」、「考え方」、「練習」の欄を設けている。 ○ 学習内容を広げたり深めたりするための参考として、「なるほど」の欄を設けている。

(2) 観点4「内容の表現・表記」、視点⑥「他教科や日常生活との関連の示し方」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科との関連を図る部分として、本文側注に「教科関連マーク」がある。 ○ 日常生活との関連を図った読み物として、「つながる科学」、「特設ページ」、「from japan 世界につながる科学」がある。 ○ 第2学年で、「日本列島の大部分は温帯に属しており（中略）ときに大きな災害をもたらすこともある。」と説明し、平成20年から平成30年までに起こった気象災害を表にして紹介している。また、側注に「注意報」、「警報」、「特別警報」を緊急度別に紹介している。 ○ 第3学年で、「自分たちの住む地域に過去に起こった自然災害について調べよう。」との活動を設定し、レポート例に本市にある災害碑について調査した結果を掲載している。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科との関連を図る部分として、本文側注に「つながる」がある。また、各学年の巻末に「理科の学習と算数・数学」がある。 ○ 日常生活との関連を図った読み物として、「くらしの中の理科」、「Science Press」、「Professional」、「科学のあしあと」がある。 ○ 第2学年で、「大雨が降ると、土砂災害、洪水、浸水などのさまざまな被害をもたらす。」と説明している。 ○ 第3学年で、「地域の自然災害」の章を設定し、気象災害及び地震や火山などの災害について説明している。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活との関連を図った読み物として、「なぜ理科を学ぶの?」、「問題発見」、「サイエンスカフェ」、「学び続ける理科マスター!」がある。 ○ 第2学年で、「集中豪雨は短時間にせまい範囲で大雨が降る現象である。これによって山間部では地すべりなどが発生し、平野部では洪水などによる水害が発生することがある。」と説明している。 ○ 第3学年で、「日本列島は世界の中でも地震や火山噴火の多い場所でもある。また、台風の通り道にもなっている。（中略）防災・減災につとめて、自然災害による影響を最小限におさえなければならぬ。」と説明している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科との関連を図る部分として、本文側注に「ブリッジ算数・数学」がある。また、各学年の巻末に「理科で使う算数・数学」がある。 ○ 日常生活との関連を図った読み物として、「ハローサイエンス」がある。 ○ 第2学年で、「大雨は、河川の氾濫や崖崩れなどをもたらす、建物や田畑への浸水、住居や道路の埋没などを引き起こすことがある。」と説明している。 ○ 第3学年で、「自然災害と私たち」として章を設定し、「身近な地域で起こった過去の自然災害と現在の対策を調べてみよう。」との活動を設定している。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科との関連を図る部分として、本文側注に「〇〇（教科名）と関連」がある。また、各学年の巻末に「理科でよく使う算数・数学」がある。 ○ 日常生活との関連を図った読み物として、「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「防災減災ラボ」、「お仕事ラボ」、「深めるラボ」、「ひろがる世界」、「なるほど」がある。 ○ 第2学年で、「梅雨期・秋雨期の停滞前線の発達にともなう豪雨による災害や、夏から秋の台風にともなう暴風雨による災害もある。（中略）また、あたたかくて湿った大気の流れなどによる積乱雲の急速な発達、短時間にせまい範囲で局地的大雨を生じて被害をおよぼしたり竜巻などの突風による災害を起こしたりすることがある。」と説明し、平成30年豪雨災害での広島県内の土砂災害の様子を写真付きで紹介している。 ○ 第3学年で、「自然が人間の生活におよぼす影響」として章を設定し、「私たちが生活している地域で、これまでに発生した自然災害を調べる。」との活動を設定している。また、別表に「大雨注意報」、「大雨警報・大雨特別警報」を緊急度別に紹介するとともに、「記録的短時間大雨情報」と「土砂災害警戒情報」についても紹介している。

(3) 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の巻頭に、「探究の流れと教科書の使い方」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に、課題に対する結論を表現するようにしている。 ○ 各単元の各節のはじめに、「課題」として疑問を投げかけるようにしており、各節の終わりに、結論を考えさせるようにしている。 ○ 各学年の4～5箇所を「探究をレベルアップ」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動としている。 ○ 各学年の巻頭に、「伝わる言葉にしよう。発表のしかた」として、生徒同士で話し合う学習活動の手順の説明がある。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年の巻末に、「探究の進め方」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に、調べたことをまとめ、発表するようにしている。 ○ 各単元の各節のはじめに、疑問を投げかけるようにしている。 ○ 各単元の終わりに、「探究活動」を設定し、習得した知識・技能を統合し、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を仕組んでいる。 ○ 第1学年の巻末にある「探究の進め方」の中で、生徒同士で話し合う学習活動の手順の説明がある。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の巻頭に、「理科のトリセツ」として、探究の進め方を10段階で示し、振り返りの後に、レポートや発表で他の人に考えを伝えるようにしている。 ○ 各単元の各章のはじめに、「Can-Do List」としてできるようになりたい目標を設定し、各章の終わりに、自己チェックとまとめをさせるようにしている。 ○ 観察・実験を「探究」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動としている。 ○ 第1学年の巻頭にある「理科のトリセツ」の中で、生徒同士で話し合う学習活動を行う際の工夫が紹介されている。また、対話の方法の例として、ジグソー法、三段階インタビュー、三段階思考についての紹介がある。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の巻頭に、「探究の進め方」として、探究の過程を7段階で示し、実験によって得られた結果を考察し、結論を出すようにしている。 ○ 各単元の各節のはじめに、「課題」として疑問を投げかけるようにしており、各節の終わりに、「結論」を示している。 ○ 各単元の1～2箇所を「疑問から探究してみよう」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動としている。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の巻頭に、「探究の過程」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に、レポートや口頭発表などで表現するようにしている。また、その8段階を「課題の把握」、「課題の追究」、「課題の解決」の3つの活動に大別している。さらに、各学年の巻末に、「探究の流れと探究のふり返り」として、探究の過程を説明するとともに、生徒が活動を振り返ることを促している。 ○ 各単元の各節のはじめに、疑問を投げかけるようにしている。 ○ 各単元にある実験のうち、1つを「探Q実験」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動としている。さらに、各単元の終わりに、「みんなで探Qクラブ」を設定し、習得した知識・技能を統合し、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を仕組んでいる。 ○ 第1学年と第2学年の巻末に、「理科における話し合いと発表」として、生徒同士で話し合う学習活動の手順の説明がある。また、対話の方法の例として、ブレインストーミングとジグソー法についての紹介がある。 ○ 言語活動の充実のため、学習内容を活用し、対話を通じて生活の中の何げない疑問の解決を図る「みんなで解決」を設けている。

3 意見

(1) 新興出版社啓林館の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、各章末、各単元末、各学年末、3学年の巻末に、演習問題を設けている。
- 視点①の工夫として、学習内容を広げたり深めたりするための参考として、「なるほど」の欄を設けている。
- 視点⑥の工夫として、第2学年で、「梅雨期・秋雨期の停滞前線の発達にともなう豪雨による災害や、夏から秋の台風にともなう暴風雨による災害もある。(中略)また、あたたかくて湿った大気の流れなどによる積乱雲の急速な発達は、短時間にせまい範囲で局地的大雨を生じて被害をおよぼしたり竜巻などの突風による災害を起こしたりすることがある。」と説明し、平成30年豪雨災害での広島県内の土砂災害の様子を写真付きで紹介している。
- 視点⑥の工夫として、第3学年で、「自然が人間の生活におよぼす影響」として章を設定し、「私たちが生活している地域で、これまでに発生した自然災害を調べる。」との活動を設定している。また、別表に「大雨注意報」、「大雨警報・大雨特別警報」を緊急度別に紹介するとともに、「記録的短時間大雨情報」と「土砂災害警戒情報」についても紹介している。
- 視点⑧の工夫として、各単元にある実験のうち、1つを「探Q実験」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動としている。さらに、各単元の終わりに「みんなで探Qクラブ」を設定し、習得した知識・技能を統合し、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を仕組んでいる。
- 視点⑧の工夫として、第1学年と第2学年の巻末に、「理科における話し合いと発表」として、生徒同士で話し合う学習活動の手順の説明がある。また、対話の方法の例として、ブレインストーミングとジグゾー法についての紹介がある。
- 視点⑧の工夫として、生活の中の何げない疑問を、学習内容を活用して対話を通して解決する場面として、「みんなで解決」を設けている。

以上のとおり、新興出版社啓林館の教科書は、1(1)に記した、本市の「大雨による自然災害も多く発生しており、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが必要な地域である」という実態や、生徒の「科学的な概念を活用して分析・解釈することに課題が見られる」、「基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、理科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、各章末、各単元末に、演習問題を設けている。
- 視点⑥の工夫として、第2学年で、「日本列島の大部分は温帯に属しており(中略)ときに大きな災害をもたらすこともある。」と説明し、平成20年から平成30年までに起こった気象災害を表にして紹介している。また、側注に「注意報」、「警報」、「特別警報」を緊急度別に紹介している。
- 視点⑥の工夫として、第3学年で、「自分たちの住む地域に過去に起こった自然災害について調べよう。」との活動を設定し、レポート例に本市にある水害碑の数を調査した結果を掲載している。
- 視点⑧の工夫として、各学年の4～5箇所を「探究をレベルアップ」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動としている。
- 視点⑧の工夫として、各学年の巻頭に、「伝わる言葉にしよう。発表のしかた」として、生徒同士で話し合う学習活動の手順の説明がある。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「大雨による自然災害も多く発生しており、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが必要な地域である」という実態や、生徒の「科学的な概念を活用して分析・解釈することに課題が見られる」、「基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、理科で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕種目〔一般〕

9 教科 [音楽] 種目 [一般]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書（教科 [音楽] 種目 [一般]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（2者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることに課題があること
- 生徒一人一人が音楽を知覚したことと感受したことを関連付けて、適切な言葉で表現することに課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点③「共通事項との関連を図るための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点⑤「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「表現・鑑賞領域における言語活動につなげる工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点③「共通事項との関連を図るための工夫」

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の学習内容を示した「学びのユニット」で、教材ごとの「学びの手掛かりとなるヒント」として音楽を形づくっている要素を示している。 ○ 巻末の「楽典」に、用語や記号などを示している。 ○ 音楽を形づくっている要素について、巻末の「どんな特徴があるかな？」のページを設け、音楽を形づくっている要素と感じ取ったことを関連付ける活動を例示している。
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の学習内容を示した「学習内容」で、教材ごとに関連する音楽を形づくっている要素を示している。 ○ 教材ごとに、関連する音楽を形づくっている要素を、見開きページの左側注に、アイコンで示している。また、学習したことをもとに考える際の参考として、「注目するポイント」を示している。 ○ 巻末の「音楽の約束」で、用語や記号などを示している。 ○ 音楽を形づくっている要素について、巻末に「音楽を形づくっている要素」のページを設け、1年間で学習した音楽を形づくっている要素を関連教材のページを付して、振り返るよう示している。 ○ 第1学年、第2・3学年上で、「リズムゲーム」、「リズムアンサンブル」、「リズムチャレンジ」のページを設け、ゲーム感覚で、簡単なリズムの読み書きを定着させたり、リズム感覚を身に付けさせたりできる場を設定している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点⑤「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞する教材の後に、関連する楽器や歌唱方法を体験する教材を配置している。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽については、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。 【発問の具体例】 第2・3学年上「唱歌(しょうが)を用いて『越天楽』を体験しよう」では、打ちものと箏(ひちりき)の唱歌の縦譜を掲載し、「音源の演奏を聴きながら唱歌で合わせてみよう」、「拍やリズム、箏の旋律の特徴を感じ取ろう」、「打ちもの(打楽器)や箏は、どのようにすると合うかな」と示し、「膝の打ち方」を付して、歌う活動を促している。 ○ 第1学年「郷土のさまざまな民謡」、「日本とアジアの声によるさまざまな表現」、「日本とアジアをつなぐ音」、第2・3学年上「郷土の音楽や芸能」、「各地のさまざまな音楽・芸能」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて紹介している。 ○ 創作活動で、日本語のリズムや抑揚、擬音語、日本の音階を題材としたり、CMソングをつくる活動を設定したりするなど、我が国の音楽、生活や社会の中の音楽と関連付ける教材を設定している。 ○ 第2・3学年上「私たちのくらしと音楽」では、音楽著作権について例を示したり、QA式で場面を設定したりしている。第2・3学年下「私たちのくらしと音楽」では、アウトリーチ・教育活動・音楽療法について掲載している。また、第2・3学年下「コンピューターと音楽」で、コンピューターと音楽の関わりについて、紹介している。 ○ 第2・3学年上「ポピュラー音楽図鑑」で、4ページにわたり、ポピュラー音楽の起源や種類について、それぞれの音楽の違いや代表的な演奏家や作曲家について、イラストを付して紹介している。
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞する教材の後に、関連する楽器や歌唱方法を体験する教材を配置している。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽については、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。 【発問の具体例】 第1学年「『越天楽』の唱歌(しょうが)を歌おう」では、五線譜と箏の縦譜(一部)を掲載し、「箏(ひちりき)の唱歌を歌って、旋律の特徴を感じ取りましょう」とし、「歌う時のポイント」を「箏の演奏を聴いて、楽器の音色や旋律の特徴を感じ取りましょう」、「唱歌の模範演奏をまねて、拍子を取りながら大きな声で歌いましょう」と示し、「歌う時の姿勢」、「拍子の取り方」を付して、歌う活動を促している。 ○ 第1学年「日本の民謡」、「郷土に伝わる民謡を調べよう」、「アジアの諸民族の音楽」、第2・3学年上「受け継ごう!郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」、第2・3学年下「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて紹介している。また、各学年、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。 ○ 創作活動で、俳句や身近な素材、鑑賞教材のモチーフを素材とするなど、我が国の音楽、生活や社会の中の音楽と関連付ける教材を設定している。 ○ 第2・3学年下「ルールを守って音楽を楽しもう!」で、著作権の「音楽を利用するときに気を付けること」、「音楽が生み出される仕組み」についてイラストの会話で表現している。また、各学年の「生活や社会の中の音楽」で音や音楽の果たす役割や、音楽体験を拓くアウトリーチや、仕事と音楽について掲載している。また、第2・3学年下「社会を映し出す音楽」の中で、地域・環境・時代と音楽との関わりについて紹介している。 ○ 第2・3学年下「ポピュラー音楽」で、ポピュラー音楽の様々なジャンルについて2ページにわたり鑑賞活動を設定し、「ポピュラー音楽のジャンル」で、海外編と日本編に分けて、更に4ページにわたり、様々なジャンルの相関関係を示したり、写真を掲載し、解説したりしている。

(3) 観点5「言語活動の充実」、視点⑨「表現・鑑賞領域における言語活動につなげる工夫」

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で設けている「進んで学び合おう ACTIVE！」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。 ○ 第2・3学年上、第2・3学年下の創作教材で、つくった作品をもとに、友達と交流する活動を設定している。 ○ 各学年の創作教材で、生徒が直接書き入れて創作活動を行うよう促している。 ○ 各学年の「何が同じで、何が違う？」では、様々な音楽について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう、表に整理し、話し合う活動を設定している。
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で設けている「深めよう！音楽」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。生徒が直接書き入れる部分は、表の形式になっている。 ○ 各学年の創作教材で、つくった作品について友達と意見交流する活動を設定している。また、創作の過程で、中間発表を設定し、話し合いを促している。 ○ 各学年の創作教材で、生徒が直接書き入れる部分を「ワークシート」と示し、創作活動と工夫したことをまとめるよう促している。 ○ 第2・3学年下の巻末で、「曲のよさをプレゼンしよう」のコーナーを設け、自分で選んだ曲について、その曲の音楽的な特徴や感じ取ったことをもとに、曲の良さや聴きどころを伝え合う活動を設定している。また、プレゼンする曲について、直接書き込む部分を設けている。

3 意見

(1) 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 観点③の工夫として、巻頭の学習内容を示した「学習内容」で、教材ごとに関連する音楽を形づくっている要素を示している。
- 観点③の工夫として、教材ごとに、関連する音楽を形づくっている要素を、見開きページの左側注に、アイコンで示している。また、学習したことをもとに考える際の参考として、「注目するポイント」を示している。
- 観点⑤の工夫として、我が国や郷土の伝統音楽について、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。「越天楽」の唱歌を歌う場面では、五線譜と箏の縦譜(一部)を掲載し、「歌う時のポイント」、「歌う時の姿勢」、「拍子の取り方」を付して、歌う活動を促している。
- 観点⑤の工夫として、各学年の裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。
- 観点⑤の工夫として、ポピュラー音楽の様々なジャンルについて、2ページにわたり鑑賞活動を設定し、「ポピュラー音楽のジャンル」で海外編と日本編に分けて、更に4ページにわたり、様々なジャンルの相関関係を示したり、写真を掲載し、解説したりしている。

- 視点④の工夫として、各学年で設けている「深めよう！音楽」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。生徒が直接書き入れる部分は、表の形式になっている。
- 視点④の工夫として、「曲のよさをプレゼンしよう」のコーナーを設け、自分で選んだ曲について、その曲の音楽的な特徴や感じ取ったことをもとに、曲の良さや聴きどころを伝え合う活動を設定している。また、プレゼンする曲について、直接書き込む部分を設けている。

以上のとおり、教育芸術社の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科 一般で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点③の工夫として、巻頭の学習内容を示した「学びのユニット」で、教材ごとの「学びの手掛かりとなるヒント」として音楽を形づくっている要素を示している。
- 視点⑤の工夫として、我が国や郷土の伝統音楽については、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。「越天楽」の唱歌を歌う場面では、打ちものと箏の唱歌の縦譜を掲載し、「膝の打ち方」を付して、歌う活動を促している。
- 視点⑤の工夫として、「ポピュラー音楽図鑑」で、ポピュラー音楽の起源や種類について、それぞれの音楽の違いや代表的な演奏家や作曲家について、イラストを付して紹介している。
- 視点④の工夫として、各学年で設けている「進んで学び合おう ACTIVE！」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。
- 視点④の工夫として、各学年の「何が同じで、何が違う？」では、様々な音楽について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう、表に整理し、話し合う活動を設定している。

以上のとおり、教育出版の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科 一般で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔器楽合奏〕

10 教科 [音楽] 種目 [器楽合奏]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [音楽] 種目 [器楽合奏]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（2者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることに課題があること
- 生徒一人一人が音楽を知覚したことと感受したことを関連付けて、適切な言葉で表現することに課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「器楽の基礎・基本を図るための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「器楽領域における言語活動につなげる工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「器楽の基礎・基本を図るための工夫」

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて解説している。 ○ リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文で示している。 ○ ギターの奏法として、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。 ○ ギターのタブ譜について、タブ譜を付した楽譜を掲載し、説明している。 ○ 創作活動として、お囃子を題材とした活動を設定している。 ○ 巻末に、「リコーダー運指表」と「ギター&キーボード コード表」を掲載している。
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八・打楽器）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて解説している。 ○ リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文や Q&A 方式で示している。 ○ ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。 ○ ギターのタブ譜について、「バンドのスコア（楽譜）を見てみよう！」で、タブ譜を付した楽譜を掲載し、説明している。 ○ 創作活動として、箏を用いた活動を設定している。 ○ 巻末に、「リコーダーの運指表」と「ギター&キーボード コード表」を掲載している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

<p>教育出版</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「さまざまな音色や響きと奏法」で、様々な楽器の演奏時の写真を掲載している。 ○ 著名な演奏者の言葉を、巻頭の「With My Heart」、各楽器のページで掲載している。 ○ 「目次」で、各楽器を色分けして示し、構成を「演奏の仕方を身に付けよう」、「合わせて演奏しよう」に分けて示している。 ○ 各楽器のページでは、見開きごとに目標を示し、教材ごとに学びのポイントを示している。 ○ 巻末の「Let's Play!」、「Let's Try!」で練習曲や合奏曲を掲載し、「名曲旋律集」では、表現・鑑賞領域で扱う楽曲の旋律を掲載している。 ○ 創作活動「音のスケッチ」で、活動①、②、③の順で一連の学習過程を示している。 ○ 各楽器の種類や特徴について写真や言葉で示している。
<p>教育芸術社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末の「楽器の図鑑」で、様々な楽器を整理し、写真を掲載している。 ○ 著名な演奏者の言葉を、巻頭4ページ、各楽器のページで掲載している。 ○ 「目次」で、各楽器を色分けして示し、構成をアンサンブルのコーナーと各楽器のコーナーに分けて示している。 ○ 「学習内容」で、三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。 ○ 各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。また、「アンサンブルセミナー」のページでは、教材ごとに学習目標と音楽を形づくっている要素、学習のポイントを示している。 ○ 巻末の「アンサンブル」、「楽器でMelody」で練習曲や合奏曲を掲載している。 ○ 創作活動「My Melody」で、①、②、③の順で一連の学習過程を示している。 ○ 各楽器の種類や特徴について写真や言葉で示し、「日本音楽の楽器編成」では、和楽器と我が国の音楽の関係を表で示している。

- (3) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、観点④「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各楽器の始めのページで、楽器の起源や発展について紹介している。 ○ 和楽器の学習において、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介しているとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各楽器の紹介ページで、楽器の起源や発展について紹介している。 ○ 和楽器の学習において、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介するとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。その際、練習の手順や練習のポイントを文で示している。 ○ 巻末の「楽しもう！和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。

- (4) 観点5「言語活動の充実」、観点⑧「器楽領域における言語活動につなげる工夫」

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「何が同じで何が違う？」で、楽器の共通点・相違点について表にまとめ、交流し友達に紹介する活動を促している。また、発展として楽器の背景となる文化や伝統を調べ、記入する欄を設けている。
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「アンサンブルセミナー」に掲載された教材全てに「深めよう！音楽」を設定し、示された譜例や吹き出しを活用しながら友達と交流し、グループで表現を工夫したり、パートの役割を話し合ったりする活動を促している。

3 意見

- (1) 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 観点①の工夫として、リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文やQ&A方式で示している。
- 観点②の工夫として、巻末の「楽器の図鑑」で、様々な楽器を整理し、写真を掲載している。
- 観点③の工夫として、「学習内容」で、三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。
- 観点③の工夫として、各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。また、「アンサンブルセミナー」のページでは、教材ごとに学習目標と音楽を形づくっている要素を示すとともに、学習のポイントが示されている。
- 観点④の工夫として、和楽器の学習において、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介するとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。その際、練習の手順や練習のポイントを文で示している。

- 視点④の工夫として、巻末の「楽しもう！和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。
- 視点⑧の工夫として、「アンサンブルセミナー」に掲載された教材全てに「深めよう！音楽」を設定し、示された譜例や吹き出しを活用しながら友達と交流し、グループで表現を工夫したり、パートの役割を話し合ったりする活動を促している。

以上のおり、教育芸術社の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科 器楽合奏で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文で示している。
- 視点③の工夫として、巻頭の「さまざまな音色や響きと奏法」で、様々な楽器の演奏時の写真を掲載している。
- 視点③の工夫として、各楽器のページでは、見開きごとに目標を示し、教材ごとに学びのポイントを示している。
- 視点④の工夫として、和楽器の学習において、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介するとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。
- 視点⑧の工夫として、「何が同じで何が違う？」で、楽器の共通点・相違点について表にまとめ、交流し友達に紹介する活動を促している。また、発展として楽器の背景となる文化や伝統を調べ、記入する欄を設けている。

以上のおり、教育出版の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科 器楽合奏で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔美術〕 種目〔美術〕

11 教科 [美術] 種目 [美術]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書(教科[美術]種目[美術])」(以下、「報告書」という。)並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者(3者)の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

- (1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について
 - 主題に対して豊かに発想し構想を練る力に課題があること
 - 表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題があること
- (2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について
 - 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「造形的な視点を豊かにするために必要な知識」
 - 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
 - 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑥「発想し構想することに関する内容」
 - 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「意見を述べ合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の示し方と具体例」

2 各発行者の特徴(抜粋)

(1) 観点1「基礎基本の定着」、視点①「造形的な視点を豊かにするために必要な知識」

開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に「学びの資料」として、第1学年では16ページ、第2・3学年では17ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。 ○ 題材ごとに「目標」が示されており、「知識や技能に関する目標」をマークとともに示している。 ○ 題材に応じて、下部に矢印を付け、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に「学習を支えるための資料」として、第1学年では24ページ、第2・3学年では28ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。それぞれの内容を詳しく扱ったり、材料の中でも身近な紙について取り上げたりすることで、内容が充実している。 ○ 題材ごとに「目標」が示されており、知識や技能に関する内容を含んだ「表現」と「鑑賞」の2つに分けて示している。 ○ 題材に応じて、下部に矢印を付け、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に「学びをささえる資料」として、第1学年では18ページ、第2・3学年上では16ページ、第2・3学年下では10ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。 ○ 題材ごとに「目標」が示されており、「知識や技能に関する目標」を「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」としてマークとともに示している。 ○ 掲載している資料に応じて、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年「学びの地図」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、3ページにわたって示している。 ○ 各題材では、目標を「知識・技能等」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で示している。 ○ 4ページにわたって美術作品を大きく掲載している。 第1学年：「樹花鳥獣図屏風」 第2・3学年：「紅梅図襖」、「誕生」、「ボウルを持つデーモン」 ○ 作品の一部を原寸大で掲載している。 第1学年：「樹花鳥獣図屏風」 第2・3学年：「自画像」（ゴッホ）、「記憶の固執」 ○ 第2・3学年の「ポスターで伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ2019」を掲載している。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年「美術って何だろう？」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、4ページにわたって示している。 ○ 各題材では、表現と鑑賞の2つの内容に分けて学習目標を示している。 ○ 各題材では、鑑賞→表現→鑑賞の流れで、表現と鑑賞を相互に関連付けて学習を進めるように構成しており、マークで示している。 ○ 4ページにわたって美術作品を大きく掲載している。 第1学年：「風神・雷神像」、「風神雷神図屏風」 第2・3学年：「『ゲルニカ』を見る少年」、「ゲルニカ」 ○ 作品の一部を原寸大で掲載している。 第2・3学年：「阿修羅像」、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」、「鳥獣人物戯画 甲巻」 ○ 第2・3学年の「メッセージを伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ1983、1984、2015」の3作品を掲載している。 ○ 鑑賞の版画や絵巻物・漫画の題材では、それぞれ2作品について和紙の風合いをもつ紙を使用して掲載している。 第1学年：「星空をペガサスと牛が飛んでいく」（生徒作品）、「瀬戸内海集 帆船（朝）」 第2・3学年：「鳥獣人物戯画」、「火の鳥」 ○ 第2・3学年、鑑賞の「最後の晩餐」では、トレーシングペーパーを挟み、かき込みができるようになっている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年「中学校美術の世界へようこそ」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、2ページにわたって示している。 ○ 各題材では、目標を「知識・技能等」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で示している。 ○ 4ページにわたって美術作品を大きく掲載している。 第1学年：「風神雷神図屏風」、「燕子花図」 第2・3学年上：「三世大谷鬼次の奴江戸兵衛」、「当時三美人」、「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」 第2・3学年下：「サグラダ・ファミリア聖堂」、「ゲルニカ」 ○ 作品の一部を原寸大で掲載している。 第1学年：「遮光器土偶」 第2・3学年上：「星月夜」、「印象一日の出」、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 第2・3学年下：「誕生」、「火焰型土器」 ○ 第2・3学年上の「その一枚が人を動かす」において、「ヒロシマ・アピールズ1983、1984、2015」の3作品を掲載している。

(3) 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑥「発想し構想することに関する内容」

開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発想や構想の方法などを示すコーナーを設け、第1学年では4題材、第2・3学年では7題材で、発想や構想を助ける内容を掲載している。 ○ 生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は16題材で紹介されている。 (例) 第1学年 エドガー・ドガなど ○ 生徒のアイデアスケッチやレポートが3題材で紹介されている。 (例) 第2・3学年 「ポスターで伝える『ゲリラ豪雨展』」など ○ 第2・3学年では、思考ツール「マッピング」を紹介している。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなの工夫」というコーナーを設け、第1学年では4題材、第2・3学年では4題材で、中学生の制作や発想の様子を詳しく掲載している。また、各題材は、鑑賞→表現の流れで学習を進めることで、鑑賞したことを表現に生かすことができ、発想や構想を助ける構成になっている。 ○ 生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は5題材で紹介されている。 (例) 第1学年 須田悦弘など ○ 生徒のアイデアスケッチやレポートが13題材で紹介されている。 (例) 第1学年 「印象に残るシンボルマーク『I'm fine』」など ○ 第2・3学年では、思考ツール「マッピング」、「9マスの図」、「ベン図」を紹介している。 ○ 第2・3学年では、発想や構想を助ける特集ページ「発想を広げる」を設けている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発想や構想の方法などを示すコーナーを設け、第1学年では3題材、第2・3学年上では2題材、第2・3学年下では2題材で、発想や構想を助ける内容を掲載している。 ○ 生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は10題材で紹介されている。 (例) 第2・3学年下 池田学など ○ 生徒のアイデアスケッチやレポートが14題材で紹介されている。 (例) 第2・3学年下 「イメージを追い求めて『人生』」など ○ 第1学年では、思考ツール「マッピング」を紹介している。 ○ 第1学年では、発想や構想を助ける特集ページ「発想・構想の手立て」を設けている。

(4) 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「意見を述べ合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の示し方と具体例」

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">開隆堂出版</p>	<p>○ 発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。</p> <p>【発想・構想の場面】</p> <p>(例) 第1学年「形と色彩のメッセージ」など</p> <p>(例) 第2・3学年「ピクトグラムとサイン計画」など</p> <p>【鑑賞の場面】</p> <p>(例) 第1学年「機能と美しさの調和」など</p> <p>(例) 第2・3学年「美術で世界と向き合う」など</p> <p>○ 友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真を付して示している。</p> <p>第1学年 7箇所</p> <p>第2・3学年 2箇所</p> <p>○ 生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。</p> <p>第1学年 2箇所</p> <p>第2・3学年 3箇所</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">光村図書出版</p>	<p>○ 発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。</p> <p>【発想・構想の場面】</p> <p>(例) 第1学年「生活をいろいろ文様」など</p> <p>(例) 第2・3学年「あれ?どうなっているの」など</p> <p>【鑑賞の場面】</p> <p>(例) 第1学年「世界の仮面と出会う」など</p> <p>(例) 第2・3学年「ゲルニカ、明日への願い」など</p> <p>○ 友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真を付して示している。</p> <p>第1学年 7箇所</p> <p>第2・3学年 6箇所</p> <p>○ 生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。</p> <p>第1学年 6箇所</p> <p>第2・3学年 18箇所</p> <p>○ 第2・3学年「学習を支えるための資料」に、特集「発想を広げる」を設け、言語活動を行う際の方法や手順を示している。</p>

日 本 文 教 出 版	○ 発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。
	【発想・構想の場面】
	(例) 第1学年「広がる模様の世界」など
	(例) 第2・3学年下「魅力を伝えるパッケージ」など
	【鑑賞の場面】
	(例) 第1学年「自然の美しさから生まれた」など
	(例) 第2・3学年下「あの日を忘れない」など
	○ 友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真で示している。
	第1学年 7箇所
	第2・3学年上 4箇所
第2・3学年下 11箇所	
○ 生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。	
第1学年 5箇所	
第2・3学年上 3箇所	
第2・3学年下 4箇所	

3 意見

(1) 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、巻末に「学習を支えるための資料」として、第1学年では24ページ、第2・3学年では28ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。
- 視点③の工夫として、第2・3学年の「メッセージを伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983、1984、2015」の3作品を掲載している。
- 視点③の工夫として、鑑賞の版画や絵巻物・漫画の題材では、それぞれ2作品について和紙の風合いをもつ紙を使用して掲載している。
- 視点③の工夫として、第2・3学年、鑑賞の「最後の晚餐」では、トレーシングペーパーを挟み、かき込みができるようになっている。
- 視点⑥の工夫として、「みんなの工夫」というコーナーを設け、第1学年では4題材、第2・3学年では4題材で、中学生の制作や発想の様子を詳しく掲載している。また、各題材は、鑑賞→表現の流れで学習を進めることで、鑑賞したことを表現に生かすことができ、発想や構想を助ける構成になっている。
- 視点⑥の工夫として、生徒のアイデアスケッチやレポートが13題材で紹介されている。
- 視点⑥の工夫として、第2・3学年では発想や構想を助ける特集ページ「発想を広げる」を設けている。

- 視点⑧の工夫として、生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を第1学年で6箇所、第2・3学年では18箇所を示している。
- 視点⑧の工夫として、第2・3学年「学習を支えるための資料」に特集「発想を広げる」を設け、言語活動を行う際の方法や手順を示している。

以上のとおり、光村図書出版の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「主題に対して豊かに発想し構想を練る力に課題がある」、「表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、美術科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、巻末に「学びをささえる資料」として、第1学年では18ページ、第2・3学年上では16ページ、第2・3学年下では10ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。
- 視点③の工夫として、第2・3学年上の「その一枚が人を動かす」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983、1984、2015」の3作品を掲載している。
- 視点⑥の工夫として、生徒のアイデアスケッチやレポートが14題材で紹介されている。
- 視点⑥の工夫として、第1学年では発想や構想を助ける特集ページ「発想・構想の手立て」を設けている。
- 視点⑧の工夫として、生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を第1学年で5箇所、第2・3学年上で3箇所、第2・3学年下では4箇所を示している。

以上のとおり、日本文教出版の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「主題に対して豊かに発想し構想を練る力に課題がある」、「表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、美術科で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔保健体育〕 種目〔保健体育〕

12 教科 [保健体育] 種目 [保健体育]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書(教科 [保健体育] 種目 [保健体育])」(以下、「報告書」という。)並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者(4者)の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 「平成30年7月豪雨」をはじめとした、自然災害が多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域であること
- 体力の実態として、筋力、全身持久力に課題が見られること
- 習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えようとするのが課題であること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「コミュニケーション能力や論理的思考力を高めるための工夫」

2 各発行者の特徴(抜粋)

(1) 観点1「基礎・基本の定着」、視点①「運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、巻末で「キーワードの解説」として用語の説明を示している。 ○ 説明が必要な本文の用語に、丸番号のルビを振り、見開き両端にその説明を掲載している。 ○ 各章末の「確認の問題」で、知識・技能の習得を確認する問題を設けている。 ○ 各小単元で学習内容に関連した「資料」が示されており、資料を読みとるためのポイントとして、「ポイントマーク」を付している。また、「読み物」で学習内容に関連した話題や読み物資料を示している。 ○ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料で、体力の要素を体力を高める運動例と、行う目安との関係で示している。
------	---

大 日 本 図 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右下に示すとともに、本文中に太文字で強調している。 ○ 説明が必要な本文の用語に、星印と数字のルビを振り、本文下にその説明を掲載している。 ○ 各章末の「学習のまとめ」で、学習内容を整理して示している。 ○ 各小単元で学習内容に関連した「資料」が示されている。また、「トピックス」、「ミニ知識」で学習内容に関連した話題や読み物資料を示している。 ○ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料で、体力の要素を中学校で学ぶ運動との関係で示している。
大 修 館 書 店	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、巻末で「用語の解説」として用語の説明を示している。 ○ 説明が必要な本文の用語に、丸番号のルビを振り、本文近くにその説明を掲載している。 ○ 各章末の「章のまとめ」で、知識・技能の習得を確認する「知識・技能の確認問題」を設けている。 ○ 各小単元で学習内容に関連した「資料」が示されており、資料を読みとるためのポイントとして、「よみ取るマーク」を付している。また、「コラム」、「事例」、「ほり下げる」で学習内容に関連した話題や読み物資料を示している。 ○ 「運動やスポーツの体と心への効果」の特設ページ「クローズアップ」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示すとともに、体力向上のための計画を立てる学習活動を示している。
学 研 教 育 み ら い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。 ○ 説明が必要な本文の用語に、四角番号のルビを振り、各ページ右側にその説明を掲載している。 ○ 各章末の「確かめよう」で、知識・技能の習得を確認する問題を設けている。 ○ 各小単元で学習内容に関連した「資料」が示されている。また、「コラム」、「情報サブリ」で学習内容に関連した話題や読み物資料を示している。 ○ 巻末資料で体力の測定とその活用例を示している。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、観点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真を8ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校及び高等学校で関連する学習内容を示している。 ○ 学習の流れを「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、本文、「発問」、「活用する」、「広げる」として、見通しを持たせるよう示している。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真を12ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、小学校及び高等学校で関連する学習内容を示している。 ○ 学習の流れを「学習のねらい」、「つかもう」、本文、「(やってみよう)」、「話し合ってみよう)」、「調べてみよう)」、「活用して深めよう」として、見通しを持たせるよう示している。
大修館書店	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真を8ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校及び高等学校で関連する学習内容を示している。 ○ 学習の流れを「きょうの学習」、「課題をつかむ(意見を出そう)」、「(やってみよう)」、「振り返ろう)」、「(考えよう)」、「話しあおう)」、「本文」、「学習のまとめ(確認しよう)」、「(発表しよう)」、「(生かそう)」、「話しあおう)」として、見通しを持たせるよう示している。 ○ 各章末の「章のまとめ」に、学習を振り返って自己評価をするための「学習の振り返り」を設けている。
学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真を10ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、小学校及び高等学校で関連する学習内容を示している。 ○ 学習の流れを「学習の目標」、「課題をつかむ」、本文、「考える・調べる」、「まとめる・深める」として、見通しを持たせるよう示している。 ○ 各章末の「章のまとめ」に、学習した内容を振り返り、自己評価をするための「振り返ろう」を設けている。

(3) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、観点④「習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小単元の「広げる」で、学習したことを自分の生活に当てはめて考えたり、さらに調べたりする活動を示している。 ○ 各章末に、習得した知識や技能を活用して考える「活用の問題」を設けるとともに、日常生活に生かしたいことを記述するための「日常生活に生かそう」を設けている。 ○ 「心肺蘇生の方法」等、日常生活で活用するために必要な、実習の具体例を7箇所示している。 ○ 小単元「自然災害による危険」、「自然災害による傷害の防止」、発展「共に生きる」、章末資料で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、警戒レベル、避難所生活、地域安全マップの作成などを取り上げている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小単元の「活用して深めよう」で、学習したことを活用することで、学びを深め、今後の生活につなげていく活動を示している。 ○ 各章末に、学習したことを日常生活で活用するための問いと記述欄「学びを活かそう」を設けている。 ○ 「心肺蘇生法」等、日常生活で活用するために必要な、実習の具体例を15箇所示している。 ○ 小単元「自然災害による傷害の防止」、資料、章末資料「学びを活かそう」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、日頃から備えておくこと、避難所でできることを考えようなどを取り上げている。
大修館書店	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小単元の「学習のまとめ」で、学習内容を確認したり、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けたり、日常生活に生かすことができるような活動を示している。 ○ 各章末に、習得した知識や技能を活用して考える「思考・判断・表現の問題」を設けるとともに、学んだことをもとにして自分の課題を見つけて記述する「学びに向かって」を設けている。また、学習した知識を実生活に生かして考える課題として、「体育の窓」を1箇所、「保健の窓」を6箇所に示している。 ○ 「心肺蘇生法」等、日常生活で活用するために必要な、実習の具体例を10箇所示している。 ○ 小単元「自然災害によるけがの防止」、特集資料で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、警戒レベル、災害から命を守る行動などを取り上げている。 ○ 小単元「災害と環境」で、生活に伴う廃棄物の衛生的管理について示すとともに、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを取り上げている。

学 研 教 育 み ら い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小単元の「まとめる・深める」で、学習のまとめとして目標を立てたり、人に伝えたり、さらに考えたりするなどして深め、実生活につなげることができる活動を示している。 ○ 各章末に、習得した知識を活用して考える問い「生かそう」を設けるとともに、日常生活に生かしたいことを記述するための「生活への活用」を設けている。また、興味や関心などに応じて学習するための「もっと広げる深める」を5箇所を示している。 ○ 「心肺蘇生法」等、日常生活で活用するために必要な、実習の具体例を9箇所示している。 ○ 小単元「自然災害に備えて」、特設ページ「もっと広げる深める」、特設ページ「探究しようよ!」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、警戒レベル、自然災害発生時の避難行動などを取り上げている。
---------------------------------	---

(4) 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「コミュニケーション能力や論理的思考力を高めるための工夫」

東 京 書 籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「保健体育の学習方法」で、「事例などを用いたディスカッション」、「ブレインストーミング」等の言語活動例を、イラストを交えて示している。 ○ 各単元の「活用する」で、事例を基に、運動や健康・安全に関する課題や解決方法をまとめる学習活動を示している。
太 日 本 図 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「保健体育の学び方」で、「ブレインストーミング」、「ロールプレイング」等の言語活動例を、イラストを交えて示している。 ○ 各単元の「話し合ってみよう」、「活用して深めよう」で、事例を基に、運動や健康・安全に関する課題や解決方法をまとめる学習活動を示している。
大 修 館 書 店	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「保健体育の学び方」で、「ブレインストーミング」、「ディスカッション」等の言語活動例を、イラストを交えて示している。 ○ 各単元の「課題をつかむ（意見を出そう）、（やってみよう）、（振り返ろう）、（考えよう）、（話しあおう）」、「学習のまとめ（確認しよう）、（発表しよう）、（生かそう）、（話しあおう）」で、事例を基に、運動や健康・安全に関する課題や解決方法をまとめる学習活動を示している。 ○ 特設ページ「特集資料」で、自身の経験等を基に話し合いを行ったり、解決方法を考えたりする学習活動を示している。

学 研 教 育 み ら い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「さまざまな学習方法」で、「事例を用いたディスカッション」、「ブレインストーミング」等の言語活動例を、イラストを交えて示している。 ○ 各単元の「考える・調べる」、「まとめる・深める」で、事例を基に、運動や健康・安全に関する課題や解決方法をまとめる学習活動を示している。 ○ 特設ページ「もっと広げる深める」、「探究しようよ!」で、自身の経験等を基に話し合いを行ったり、解決方法を考えたりする学習活動を示している。
---------------------------------	--

3 意見

(1) 大修館書店の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、各小単元に学習内容に関連した「資料」が示されており、資料を読みとるためのポイントとして、「よみ取るマーク」を付している。
- 視点①の工夫として、「運動やスポーツの体と心への効果」の特設ページ「クローズアップ」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示すとともに、体力向上のための計画を立てる学習活動を示している。
- 視点③の工夫として、各章末の「章のまとめ」に、学習を振り返って自己評価をするための「学習の振り返り」を設けている。
- 視点④の工夫として、学習した知識を実生活に生かして考える課題として、「体育の窓」を1箇所、「保健の窓」を6箇所に示している。
- 視点④の工夫として、小単元「自然災害によるけがの防止」、特集資料で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、警戒レベル、災害から命を守る行動などを取り上げている。
- 視点④の工夫として、小単元「災害と環境」で、生活に伴う廃棄物の衛生的管理について示すとともに、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを取り上げている。
- 視点⑧の工夫として、特設ページ「特集資料」で、自身の経験等を基に話し合いを行ったり、解決方法を考えたりする学習活動を示している。

以上のとおり、大修館書店の教科書は、1(1)に記した、本市の「災害への知識と備えが必要な地域である」という実態や、生徒の「筋力、全身持久力に課題が見られること」、「習得した知識や技能を活用して課題解決する」、「学習したことを相手に分かりやすく伝えようとする」が課題であるという状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、保健体育科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 学研教育みらいの教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点①の工夫として、巻末資料で体力の測定とその活用例を示している。
- 視点③の工夫として、各章末の「章のまとめ」に、学習した内容を振り返り、自己評価をするための「振り返ろう」を示している。
- 視点④の工夫として、興味や関心などに応じて学習するための「もっと広げる深める」を5箇所を示している。
- 視点④の工夫として、小単元「自然災害に備えて」、特設ページ「もっと広げる深める」、「探究しようよ!」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、警戒レベル、自然災害発生時の避難行動などを取り上げている。
- 視点⑧の工夫として、特設ページ「もっと広げる深める」、「探究しようよ!」で、自身の経験等を基に話し合いを行ったり、解決方法を考えたりする学習活動を示している。

以上のとおり、学研教育みらいの教科書は、1(1)に記した、本市の「災害への知識と備えが必要な地域である」という実態や、生徒の「筋力、全身持久力に課題が見られること」、「習得した知識や技能を活用して課題解決する」、「学習したことを相手に分かりやすく伝えようとする」が課題であるという状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、保健体育科で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科 [技術・家庭] 種目 [技術分野]

13 教科 [技術・家庭] 種目 [技術分野]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [技術・家庭] 種目 [技術分野]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（3者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

- (1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について
- 生徒は、世の中の技術に触れる機会が多く、技術分野の学習への関心は高いが、年々、ものづくり体験は少なくなり、また、生活体験は個人差が大きくなっていること
 - 技術と生活や社会、環境との関係について理解し、知的財産を尊重しながら創意・工夫する力に課題があること
 - 技術と生活や社会、環境との関係について理解し、問題解決学習を行う力に課題があること
- (2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について
- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
 - 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「学習過程の工夫」
 - 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑤「題材や資料等の配列・分量」
 - 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑥「実践的・体験的な学習に関する内容」

2 各発行者の特徴（抜粋）

- (1) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「技術の天秤」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を掲載している。 ○ 学習内容と関わりのある話題を「技術の匠」のコーナーに掲載し、学習に生かせるようにしている。 ○ 問題解決の具体例に、「問題の発見」、「課題の設定」、「構想図」、「部品表」、「製作の手順」、「私の工夫」を示し、生徒が問題解決を行う際の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりすることについて例示している。 <p>【リモコンラックの例】</p> <p><問題の発見> 部屋の中でリモコンを紛失してしまう。</p> <p><課題の設定> リモコンを立てかけて置いておくラックによって、決められた場所に収納できるようにする。</p>
------	---

<p>教 育 図 書</p>	<p>○ 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、技術の最適化について具体的な事例を掲載している。</p> <p>○ 学習内容と関わりのある話題を「技ビット」、「センパイに聞いてみよう」のコーナーに掲載し、学習に生かせるようにしている。</p> <p>○ 問題解決の具体例に、「問題を発見する」、「目的や条件をもとに構想を考える」、「構想を具体化する」、「設計をまとめる」を示し、生徒が問題解決を行う際の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりすることについて例示している。</p> <p>【ショベルカーのモデルの例】</p> <p>＜問題を発見する＞</p> <p>効率よくものを拾って運ぶためには、どのような装置にするとよいか。</p> <p>＜目的や条件をもとに構想を考える＞</p> <p>今回は、コントローラを使ってロボットを動かそう。また、4速ギヤボックスを使った構想を考えてみよう。</p>
<p>開 隆 堂 出 版</p>	<p>○ 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「トレードオフ」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を掲載している。</p> <p>○ 学習内容と関わりのある話題を「探究」のコーナーに掲載し、学習に生かせるようにしている。</p> <p>○ 問題解決の具体例に、「問題の発見」、「課題の設定」、「設計・製作」、「評価・改善」、「構想図」、「部品表」、「さまざまな課題解決の方法例」を示し、生徒が問題解決を行う際の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりすることについて例示している。また、「問題の発見」に「社会とのつながり」を併せて示すことで、生徒が自らの問題を発見する際の、社会とのつながりの考え方を例示している。</p> <p>【安全性を重視したふみ台の例】</p> <p>＜問題の発見＞</p> <p>幼い家族は洗面台に届かないので、以前使っていたいすの上に乗って顔を洗っていますが、高さがあるおらず危険です。また、いすが壊れそうです。</p> <p>＜社会とのつながり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が安全に使用できる。【安全性の追求】 ・ 幼児が持ち運びしやすい。【利便性の追求】 ・ 幼児が乗りやすい。【機能性の追求】 <p>＜課題の設定＞</p> <p>安全に使えるふみ台を製作して、顔を洗えるようにしよう。</p> <p>＜振り返りの視点＞（評価・改善）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に使えるふみ台となったか。 ・ 持ち運びやすい作りになっているか。 ・ 乗りやすいか。

(2) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「学習過程の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習の流れ」において示し、説明している。 ○ 社会での問題解決の流れの例を、技術分野の問題解決の流れと併記して示している。 ○ 各内容とも「未来の Technology」、「学習のまとめ」の項目で学習を振り返り、学習した課題解決と生活や社会とのつながりについて考える内容を設けている。 ○ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、内容A～Dとは別に「統合的な問題解決をしよう！」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。 ○ 内容A～Dを学習した後に「技術分野の学習を終えて」を掲載し、技術の学習を振り返るとともに、巻末に「SDGs と Technology」を掲載し、持続可能な社会の構築と技術の関係について確認できるようにしている。
教育図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各内容とも「やってみよう」、「編のまとめ」の項目で学習を振り返り、これからの技術について考える内容を設けている。 ○ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、内容A～Dとは別にE編「夢をかなえる技術」を設け、統合的な問題解決の学習について具体的に例示している。
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習の流れ」において示し、各要素について4コマ漫画を使って説明するとともに、学習の流れのイメージ図を掲載している。 ○ 社会での問題解決の例を、学習の流れのイメージ図と同じ形式で示している。 ○ 各内容とも「学習を振り返ろう」の項目で学習した課題解決と生活や社会とのつながりについて考える内容を設けている。 ○ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、内容「D情報の技術」の中に、内容「B生物育成の技術」との統合実習例を掲載し、統合的な問題解決の学習について具体的に例示している。 ○ 内容A～Dを学習した後に「技術分野の学習をふり振り返り、私たちの未来へつなげよう」を掲載し、技術の学習を振り返るとともに、持続可能な社会の構築に向けて、主体的に技術に関わる態度や、技術を工夫し創造する態度について確認できるようにしている。

(3) 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑥「題材や資料等の配列・分量」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総ページ数 306 ページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 80 ページ ・ 「技術による問題解決」に関する分量 137 ページ ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 30 ページ ○ 「知的財産の活用・創造」を掲載し、技術と知的財産について具体例を示している。 ○ 広島に関連する写真を1点扱っている。 <ul style="list-style-type: none"> 【写真】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 創造アイデアロボットコンテスト広島県代表 ○ サイズ AB判 重さ 約610g
教育図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総ページ数 352 ページ（うち技術ハンドブック 42 ページ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 100 ページ ・ 「技術による問題解決」に関する分量 164 ページ（うち技術ハンドブック 38 ページ） ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 16 ページ ○ 広島に関連する情報を1点扱っている。 <ul style="list-style-type: none"> 【情報】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末資料「博物館に行ってみよう！」で名称を紹介している「広島平和記念資料館」と「広島大学総合博物館」 ○ （本紙）サイズ A4変型（204×264mm） 重さ 約625g （別冊）サイズ A4変型（193×264mm） 重さ 約110g
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総ページ数 302 ページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 118 ページ ・ 「技術による問題解決」に関する分量 114 ページ ・ 「社会の発展と技術」に関する分量 16 ページ ○ 各内容の終わりにコラムを掲載し、技術と知的財産や倫理について具体例を示している。 ○ 広島に関連する写真を2点、資料を1点扱っている。 <ul style="list-style-type: none"> 【写真】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考資料「世界最大規模の製鉄所（福山市）」の工場の様子 ・ 巻末資料「日本各地の伝統的な技・材料・工芸 Map」の「宮島細工」 【資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考資料「世界最大規模の製鉄所（福山市）」 ○ サイズ AB判 重さ 約 570g

(4) 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑥「実践的・体験的な学習に関する内容」

東京書籍	<p>○ 実践的・体験的な学習の具体例の合計 (39)</p> <p>【内容「A材料と加工の技術」の具体例の数 (8)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモコンラック ・トランシュボックス ・飾り棚 ・プリント整理箱 ・ロッカー整理棚 ・プリンターカバー ・タブレットスタンド ・絵本ラック <p>【内容「B生物育成の技術」の具体例の数 (8)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナス ・ジャガイモ ・ダイコン ・イネ ・ラッカセイ ・リーフレタス ・パンジー ・イチゴ <p>【内容「Cエネルギー変換の技術」の具体例の数 (5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯型扇風機 ・冷蔵庫開けっ放し報知器 ・自動点灯 LED ライト ・自動車の乗降装置 ・さくらんぼ収穫ロボット <p>【内容「D情報の技術」の具体例の数 (12)】</p> <p>ネットワークを利用した双方向性のある コンテンツのプログラミングによる問題の解決 (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域紹介翻訳システム ・防災マップ ・クラス伝言板システム ・学校内チャットシステム ・施設確認システム ・中学校物知り博士 <p>計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防システム ・育苗システム ・ロボット掃除機のモデル ・冷蔵庫開閉チェッカー ・福祉車両のモデル ・さくらんぼ自動収穫ロボット <p>【統合的な問題解決の具体例の数 (6)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物防止システム ・地震時避難誘導システム ・自動車サポートシステム ・ドローン配送システム ・トラック物流システム ・自動かん水システム
教育図書	<p>○ 実践的・体験的な学習の具体例の合計 (32)</p> <p>【内容「A材料と加工の技術」の具体例の数 (9)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不思議な本立て ・パンチングメタルスタンド ・調味料ホルダー ・便利なプリンターラック ・パーフェクトスマホスタンド ・リモコンスタンドつき本立て ・小物ボックス ・2列小物スタンド ・2段小物ラック <p>【内容「B生物育成の技術」の具体例の数 (6)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベビーリーフ ・ミニダイコン ・ミニトマト ・コマツナの鉢栽培 ・キュウリのプランター栽培 ・低温処理によるチューリップとパンジーの寄せ植え <p>【内容「Cエネルギー変換の技術」の具体例の数 (6)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンタンライト ・ぱくぱくカム ・ショベルカーのモデル ・災害時に役立つライト ・コロコロコースター ・ライトつきメガネスタンド <p>【内容「D情報の技術」の具体例の数 (9)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追いかっこゲーム ・数当てゲーム <p>ネットワークを利用した双方向性のある コンテンツのプログラミングによる問題の解決 (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAバザーの案内マップ ・簡単チャット ・簡単チャットのプログラミング ・双方向性の蓄積クイズ <p>計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動点灯・消灯ライト ・自動かん水機 ・いろいろ問題解決 <p>【統合的な問題解決の具体例の数 (2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2足歩行ロボット ・バッテリーチャージャ

開 隆 堂 出 版	<p>○ 実践的・体験的な学習の具体例の合計 (29)</p> <p>【内容「A材料と加工の技術」の具体例の数 (7)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一枚の板で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック ・規格材で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック ・安全性を重視したふみ台 ・調理スペースが広がる調味料ラック ・見ばえよく植物を収納する鉢入れ ・機能性を重視したカレンダーつきメモホルダ ・分類して収納できる文房具の整理箱 <p>【内容「B生物育成の技術」の具体例の数 (8)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甘みのあるミニトマトの栽培 ・リーフレタスの養液栽培 ・ラディッシュの容器栽培 ・チューリップの促成栽培 ・イネの容器栽培 ・乳牛の飼育 (「動物の飼育」の具体例) ・ドジョウの養殖 (「水産生物の栽培」の具体例) ・スギ人工林の育成 <p>【内容「Cエネルギー変換の技術」の具体例の数 (5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時に光る防災用ライト ・介助用ロボットコンテストを考えた設計 ・持ち運べる LED ライトスタンド ・お手軽クリーナー ・音声増幅器 <p>【内容「D情報の技術」の具体例の数 (8)】</p> <p>ネットワークを利用した双方向性のある コンテンツのプログラミングによる問題の解決 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して使えるメッセージ交換アプリ ・ネット対戦型タイピング練習 ・防災地図アプリ ・ルート検索アプリ ・英単語の発音チェックアプリ <p>計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立ち入り禁止エリアを判断する金属回収ロボット ・自宅のセキュリティ対策—モニタリングによる防犯— ・自分の動きを計測するトレーニング補助装置 <p>【統合的な問題解決の具体例の数 (1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ植物工場 (生物育成との統合) —コマツナの苗の育成— <p>※ 内容「D情報の技術」の問題解決として位置づいている。</p>
-----------------------	--

3 意見

(1) 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点③の工夫として、問題解決の具体例を示すとともに、「さまざまな課題解決の方法例」として、生徒が創意・工夫する視点のヒントを示している。
- 視点③の工夫として、問題解決の具体例の中の「問題の発見」に「社会とのつながり」を記載し、技術分野の学習と生活や社会が繋がっていることを意識させることができるようにしている。
- 視点④の工夫として、技術分野の学習の3つの要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」について、「技術分野の学習の流れ」として示すとともに、4コマ漫画や学習の流れのイメージ図を使って説明している。
- 視点④の工夫として、内容A～Dの学習を終えた後で、技術分野で学習した内容と持続可能な社会の構築との関連について考える内容を掲載するとともに、「主体的に技術にかかわる態度」や「技術を工夫し創造する態度」を持ち続けることの重要性について確認できるようにしている。
- 視点⑤の工夫として、知的財産を保護・活用することに加えて、創造することの重要性について示すとともに、掲載しているコラムの中で、技術に携わる者の倫理観についても詳細

に触れている。

- 視点⑥の工夫として、実践的・体験的な問題解決学習の具体例の名称について、「安全性を重視した」や「調理スペースが広がる」など、何を目的としたものかがわかるようになってきている。

以上のとおり、開隆堂出版の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「世の中の技術に触れる機会が多く、技術分野の学習への関心は高いが、年々、ものづくり体験は少なくなり、また、生活体験は個人差が大きくなっている」、「技術と生活や社会、環境との関係について理解し、知的財産を尊重しながら創意・工夫する力に課題がある」、「技術と生活や社会、環境との関係について理解し、問題解決学習を行う力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、技術・家庭科 技術分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点③の工夫として、問題解決の具体例を示すとともに、「私の工夫」として、生徒が創意・工夫する視点のヒントを示している。
- 視点④の工夫として、技術分野の学習の3つの要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」について、「技術分野の学習の流れ」として示し、説明している。
- 視点④の工夫として、内容A～Dの学習を終えた後で、技術分野で学習した内容と持続可能な社会の構築との関連について考える内容を掲載している。
- 視点⑥の工夫として、知的財産を保護・活用することに加えて、創造することの重要性について示している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「世の中の技術に触れる機会が多く、技術分野の学習への関心は高いが、年々、ものづくり体験は少なくなり、また、生活体験は個人差が大きくなっている」、「技術と生活や社会、環境との関係について理解し、知的財産を尊重しながら創意・工夫する力に課題がある」、「技術と生活や社会、環境との関係について理解し、問題解決学習を行う力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、技術・家庭科 技術分野で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔技術・家庭〕 種目〔家庭分野〕

14 教科 [技術・家庭] 種目 [家庭分野]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [技術・家庭] 種目 [家庭分野]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（3者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 自然災害が多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域でもあること
- 実生活の中にある問題をあまり感じておらず、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、学校で学んだ知識や技能を家庭生活に積極的に生かすことが十分できていないという課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点②「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点④「題材や資料等の配列・分量」
- 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑤「実践的・体験的な学習を実施するための資料」
- 観点4「内容の表現・表記」、視点⑧「『持続可能な開発目標』を意識させるための表記」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点②「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭分野のガイダンスにおいて、学習の進め方がイメージできるように、「問題を解決する筋道—家庭分野の学習の進め方—」を示している。 ○ 各編の最初に、「小学校家庭科での学習」と「この編で学ぶこと」を学習の流れに沿って示している。 ○ 編末の「学習のまとめ」に「3 生活に生かそう」を設け、生徒が学習したことを実生活に生かせるようにしている。 ○ 発展的な学習については、各学習に関連する内容に「発展」のマークを付し、9例示している。 ○ 巻末に「生活の課題と実践」をまとめて示しており、「生活の課題と実践の進め方」として、「問題を解決する筋道」と関連させている。また、課題の決め方、まとめ方の例を示している。 <p>【「生活の課題と実践」の例：12例】</p> <p>【まとめ方の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・ポスター ・新聞形式 ・コンピュータ <ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭分野の学習を終えて」に、今後の生活や学習につなげるための振り返りを掲載している。
------	---

<p>教 育 図 書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「自分の課題をもって学習に取り組もう！」において、学習の進め方がイメージできるように、「課題解決学習の流れ」を用いて示している。 ○ 各内容の最初に、「自立度チェック」を設け、今の自分を振り返ることができるようにしている。 ○ 章末に「学びを生かそう」を設け、「課題設定のヒント」や「私の課題の例」として、課題の設定例と取り組み方の流れを示している。 ○ 発展的な学習については、各学習に関連する内容に「発展」のマークを付し、7例示している。 ○ 巻末に「生活の課題と実践」をまとめて示しており、「生活の課題と実践」の学習の流れを課題解決の流れと関連させている。 【「生活の課題と実践」の例：8例】 ○ 「家庭分野の学習をふり返ろう」に、各編についての振り返りを記述する欄を設けている。
<p>開 隆 堂 出 版</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭分野のガイダンスにおいて、学習の進め方がイメージできるように「主体的・対話的で深い学びをしよう」を示している。 ○ 各内容の最初のページに、「学習前に、今のあなたの興味・関心を書きましょう。」と「学習を終えて、何に関心を持ちましたか。」の記述欄を設け、学習前と学習後の比較ができるようにしている。 ○ 章末に「ふり返り」や「生活にいかそう」を設け、学習した内容を振り返り、実生活に即した学習ができる問いを設けている。 ○ 発展的な学習については、各学習に関連する内容に「発展」のマークを付し、9例示している。 ○ 巻末に「生活の課題と実践」をまとめて示しており、「生活の課題と実践の進め方」として学習の流れを示している。また、実践のまとめ方の例を示している。 【「生活の課題と実践」の課題例：12例】 【まとめ方の例】 ・レポート ・ワークシート ・新聞やポスター ・プレゼンテーションソフト ・ポートフォリオ ・作品 ○ 「学んだことを次に生かそう！」に、3年間の学びをこれからの自分に生かしていくための記述を掲載している。

(2) 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点④「題材や資料等の配列・分量」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の配列は、ガイドンス → B食生活・衣生活・住生活 → C消費生活と環境 → A家族・地域 → 生活の課題と実践 の順で配列している。 ○ 「プロに聞く」で、学習内容に関連する職業に就いている人からのメッセージを16個掲載している。 ○ 災害への備えに関する学習には「防災」マークを付しており、A家族・地域、B衣生活・住生活において扱っている。 ○ 巻末付録に「防災・減災手帳」と「子どもの視界体験眼鏡」を設けている。 ○ 広島に関する記載が5カ所ある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしまそだちの写真 ・広島かきの写真 ・カキの土手鍋の写真 ・備後緋の写真 ・安芸郡熊野町の生徒の写真（幼児と触れ合おう） ○ サイズ AB判 重量 約605g
教育図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の配列は、ガイドンス → A家族・地域 → B食生活・衣生活・住生活 → C消費生活と環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。 ○ 「センパイに聞こう！」で、学習内容に関連する職業に就いている人からのメッセージを10個掲載している。 ○ 災害への備えに関する学習には「防災」マークを付しており、A家族・地域、B食生活・衣生活・住生活において扱っている。 ○ 巻末に「献立作成用のシール」を設けている。 ○ 広島に関する記載が3カ所ある。 <ul style="list-style-type: none"> ・かき料理の写真 ・竹原格子の写真 ・土砂災害の被害の写真 ○ サイズ A4変型 重量 約630g
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の配列は、ガイドンス → A家族・地域 → B食生活・衣生活・住生活 → C消費生活と環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。 ○ 「先輩からのエール」で、学習内容に関連する職業に就いている人からのメッセージを18個掲載している。 ○ 災害への備えに関する学習には「防災」マークを付しており、A家族・地域、B衣生活・住生活において扱っている。 ○ 巻末の折込みページに、防災・減災についてまとめた「災害から『いのちと生活』を守るために」を設けている。 ○ 広島に関する記載が4カ所ある。 <ul style="list-style-type: none"> ・広島菜の文字 ・広島菜の写真 ・牡蠣の土手鍋の写真 ・宮島細工（しゃもじ）の写真 ○ サイズ AB判 重量 約567g

(3) 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑤「実践的・体験的な学習を実施するための資料」

東京書籍	<p>○ 野菜・いもの調理、肉の調理、魚の調理の順に、実習例を45例と、幼児のおやつ7例を示している。</p> <p>〈蒸し料理の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶた肉と野菜の重ね蒸し ・蒸しどりのごまだれ ・蒸し野菜のサラダ ・野菜の蒸しパン（蒸し器） <p>〈だしを使った和食の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具だくさんみそ汁 ・野菜の焼き浸し ・キャベツと油揚げのみそ汁 ・かきたま汁 ・いりどり（がめ煮、筑前煮） <p>○ 調理手順の中に「ポイント」マークを付し、調理上でのポイントを示している。</p> <p>○ 調理実習例とともに、組み合わせ例とその作り方も示している。</p> <p>○ 布を用いた製作について、実習例を16例と衣服のリフォーム例を5例示している。</p> <p>○ 幼児との触れ合い体験の実習について、3事例示している。</p>
教育図書	<p>○ 肉の調理、魚の調理、野菜の調理の順に、実習例を44例と、幼児のおやつ5例、災害時の調理例を示している。</p> <p>〈蒸し料理の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュウマイ（蒸し器） ・魚のホイル蒸し ・蒸し野菜サラダ ・蒸しパン（蒸し器） <p>〈だしを使った和食の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉じゃが ・筑前煮（しいたけ） ・ひじきのいため煮 ・かきたま汁 ・卵焼き <p>○ 調理手順の中に「ポイント」マークを付し、調理上でのポイントを示している。</p> <p>○ 調理実習例とともに、「私のアレンジ」や組み合わせ例を示している。</p> <p>○ 布を用いた製作について、実習例を7例示している。</p> <p>○ 幼児との触れ合い体験の実習について、3事例示している。</p>

開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肉の調理、魚の調理、野菜の調理、あと1品つくってみよう（副菜、汁物、電子レンジ調理）、おやつやデザートの際に、実習例を43例示している。 〈蒸し料理の例〉 <ul style="list-style-type: none"> ・蒸し野菜のサラダ（蒸し器） ・米粉蒸しパン（蒸し器） ・プリン 〈だしを使った和食の例〉 <ul style="list-style-type: none"> ・だいこんのみそ汁 ・えのきと油揚げのすまし汁 ・青菜の卵とじ ・筑前煮（しいたけ） ・大豆とひじきの煮もの ・かぼちやの煮もの ・なめこのみそ汁 ・かきたま汁 ・とん汁 ○ 調理手順の中に「Q1」や「Q2」などを付し、それに対応した調理のポイントを「調理方法のQ&A」の形で示し、「なぜ～？」と考えさせるように示している。 ○ 調理実習例とともに、組み合わせ例とその作り方も示している。 ○ 視覚的、科学的に捉え、実感を伴って学習できるように、栄養素を調べる実験を設けている。 ○ 布を用いた製作について、実習例を9例示している。 ○ 幼児との触れ合い体験の実習について、5事例示している。
-------	---

(4) 観点4「内容の表現・表記」、視点⑧「『持続可能な開発目標』を意識させるための表記」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 裏見返しに見開きで、SDGsの17の目標のマークを示すとともに、「C編消費生活・環境」の「持続可能な消費生活を目指して」において、SDGsについての記載がある。 ○ 各編の最後に（5編を除く）、「持続可能な〇〇を目指して」の章を設け、これからの学習を深められるようにしている。
教育図書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「C編消費生活・環境」の最初のページに見開きで、SDGsの17の目標のマークを示すとともに、持続可能な社会を目指すための取組について考える活動を設けている。
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガイダンスでSDGsの17の目標のマークを示すとともに、「C消費生活と環境」の「世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造」において、SDGsについての記載がある。 ○ 各題材の最後に持続可能な社会をテーマとして、それぞれの学習内容と関わりの深いSDGsの目標を具体的に取り上げ、話し合わせる活動を設け、これからの学習を深められるようにしている。

3 意見

(1) 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点②の工夫として、各内容の最初のページに「学習前に、今のあなたの興味・関心を書きましょう。」と「学習を終えて、何に関心を持ちましたか。」の記述欄を設け、学習前と学習後の比較ができるようにしている。
- 視点②の工夫として、巻末の「生活の課題と実践」で、学習の流れを示し、実践のまとめ方として、「レポート」、「ワークシート」、「新聞やポスター」「プレゼンテーション

ソフト」、「ポートフォリオ」、「作品」を例として示している。

- 視点④の工夫として、巻末の折り込みページに、防災、減災についてまとめた「災害から『いのちと生活』を守るために」を8ページにわたり掲載している。
- 視点⑤の工夫として、調理手順の中に、「Q1」や「Q2」などを付し、それに対応した調理のポイントを「調理方法のQ&A」の形で示し、「なぜ〜？」と考えさせるようにしている。
- 視点⑥の工夫として、栄養素を調べる実験を設け、視覚的、科学的に捉え、実感を伴って学習できるようにしている。
- 視点⑧の工夫として、各題材の最後に持続可能な社会をテーマとして、それぞれの学習内容と関わりの深いSDGsの目標を具体的に取り上げ、話し合わせる活動を設け、これからの学習を深められるようにしている。

以上のおり、開隆堂出版の教科書は、1(1)に記した、本市の「災害への知識と備えが必要な地域である」という実態や、生徒の「実生活の中にある問題をあまり感じておらず、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、学校で学んだ知識や技能を家庭生活に積極的に生かすことが十分できていないという課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、技術・家庭科 家庭分野で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点②の工夫として、各編の最初に、「小学校家庭科での学習」と「この編で学ぶこと」を学習の流れに沿って示している。
- 視点②の工夫として、巻末の「生活の課題と実践」で、学習の流れを示し、実践のまとめ方として、「レポート」、「ポスター」などを例として示している。
- 視点④の工夫として、巻末付録に「防災・減災手帳」を設けている。
- 視点⑤の工夫として、調理手順の中に「ポイント」マークを付し、調理上でのポイントを示している。
- 視点⑧の工夫として、持続可能な社会の構築を目指して、「持続可能な〇〇を目指して」の章を設け、これからの学習を深められるようにしている。

以上のおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「災害への知識と備えが必要な地域である」という実態や、生徒の「実生活の中にある問題をあまり感じておらず、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、学校で学んだ知識や技能を家庭生活に積極的に生かすことが十分できていないという課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、技術・家庭科 家庭分野で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔外国語〕 種目〔英語〕

15 教科 [外国語] 種目 [英語]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科 [外国語] 種目 [英語]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（6者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- まとまりのある文章を読んで説明文等の大切な部分を理解することに課題が見られること
- 与えられた情報に基づいて正確に書くことや、自分の考えや意見を書くことに課題が見られること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」
- 観点4「内容の表現・表記」、視点⑦「本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた、複数の領域を統合した言語活動の工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習をふり返ろう-CAN-DO リスト」を裏見返しに掲載しており、小学校から高等学校を含め、前学年、当該学年、次学年の目標を示している。また、Stage を3つに分け、自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を、第1学年では活動について、第2学年以降は題材と活動について、「～することができる」の形で、扉に日本語で示している。また、単元の終末に、生徒が目標について自己評価する箇所を設けている。 ○ 第3学年の Let's Read 1 「A Mother's Lullaby」で、広島原爆や、オバマ大統領の来広について扱っている。
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「英語で『できるようになったこと』リスト」を巻末資料に掲載しており、各学年、3年間での到達目標を示している。また、「できるようになったこと」について、自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を、「～する」の形で、扉に日本語で示している。また、各目標に対応したページの下に、理解を確認する欄を設けている。 ○ 第2学年の PROGRAM 8 「A Hope for Lasting Peace」で、佐々木禎子さんと折り鶴について扱っている。

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「What Can I do?」を裏見返しに掲載しており、各学年、3年間での到達目標を示している。 ○ 単元の目標を、「USE」パートごとに、「～しよう」の形で、扉に日本語で示している。 ○ 第3学年の Lesson 3 「The Story of Sadako」で、佐々木禎子さんについて扱っている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「CAN-DO 自己チェックリスト」を裏見返しに掲載しており、前学年、当該学年、次学年の到達目標を示している。また、4段階で示された顔マークを付して、到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を、「Speak about～」や「Talk and Write about～」の形で、扉に英語で示している。また、パートごとに、「～しよう」の形で、各ページの上部に、知識・技能等の目標を日本語で示している。さらに、単元の終末に、各目標に対する「ふり返ろう」を設定している。 ○ 各パートに設定されている知識・技能等に関する目標について、達成度を評価する「Think & Try」を設定している。 ○ 第3学年の Reading 2 「My Prayer for Peace」で、広島に住んでいる中学生のスピーチを題材として、原爆に遭った少女の話や映画、オバマ大統領の来広について扱っている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「CAN-DO List」を巻末付録に掲載しており、学年ごとに、レベルが上がるように到達目標を示している。また、4段階で示された顔マークとチェック欄を付して、到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標とそれに関わる技能を、「～することができる」の形で、扉に日本語で示している。また、単元の終末に、目標に対応した「ふり返り」を設けている。 ○ 第3学年の Unit 3 「Lessons From Hiroshima」や Let's Read 「From the Diary of Kawamoto Itsuyoshi」で、ピースボランティアや原爆で犠牲になった中学生の日記を扱っている。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「CAN-DO リスト」を巻末に掲載しており、各学年、3年間での到達目標を示している。また、チェック欄を付して、自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を、「～することができる」の形で、第1学年は単元1ページ目の上部に、第2・3学年は扉に日本語で示している。また、パートごとに、「～しよう」の形で、各ページの上部に、知識・技能等の目標を日本語で示している。 ○ 第3学年の Unit 3 「Passing Down Memories」で、語り部伝承プロジェクトを扱っている。

(2) 観点4「内容の表現・表記」、視点⑦「本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が示されている。また、第3学年の表見返しに、SDGsに関するテーマを示している。 ○ 各学年、各単元の冒頭と「Scene」と「Read and Think」のパートごとに、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。 ○ 各学年、単元間や巻末に資料として、コミュニケーションに役立つ「Word Room」をイラスト付で収録している。 ○ 巻末資料の「Optional Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に2～3つ掲載している。
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が示されている。また、各単元の「Retell」に、再話活動で活用する、場面ごとのイラストや写真を掲載している。 ○ 各学年、各単元の「Scenes」、「Think」、「Retell」のパートごとに、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。 ○ 各学年、巻末資料として、コミュニケーション活動に役立つ「アクションカード」を収録している。 ○ 巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、第3学年に2つ掲載している。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストが示されている。 ○ 各学年、各単元の「GET」、「USE」、「Take Action!」のパートごとに、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。 ○ 各学年、巻末資料として、日常生活を題材とした「Role-Play Sheet」をイラスト付で収録している。 ○ 巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～2つ掲載している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が示されており、いずれも、SDGsに関するテーマとなっている。 ○ 各学年、各単元の冒頭に、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。 ○ 各学年、巻末資料として、「即興で自分のことや考えを伝える」などのコミュニケーションを行う題材となるカードを収録している。 ○ 各学年の巻末に、学習した内容を活用し、ペアでの応答や即興的なやり取り・発表をするための話題や語彙を示した「Activities Plus」を、赤マスキングシートを付して収録している。 ○ 巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～4つ掲載している。

光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストが示されている。また、巻末の帯教材に、再話活動で活用する、場面ごとのイラストや写真を掲載している。 ○ 各学年、各単元の冒頭とパートごとに、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。 ○ 各学年、巻末資料として、自分や相手のことについて、即興でやり取りするための「Let's Talk!」を収録している。 ○ 巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が示されている。 ○ 各学年、各単元のパートごとに、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。

(3) 観点5「言語活動の充実」、視点⑧「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた、複数の領域を統合した言語活動の工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Stage Activity」(年3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く・やり取り」や「聞く・話す(発表)・書く・話す(やり取り)・読む」等、3～5領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「町のおすすめ場所の紹介」や「自分の活動記録」等、様々なテーマを設定している。 ○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年後半から、各単元内の「Unit Activity」や、各単元内の「Mini Activity」で設定し、「聞く・読む・話す(発表・やり取り)」等、2～4領域を統合した発信型の言語活動になっている。(例：第2学年14回) ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Let's Read」や「Let's Write」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」、「書く」の4領域を扱っている。
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Our Project」(年3回)で設定しており、活動の過程に「聞く・話す(やり取り・発表)・書く」や「聞く・読む・話す(やり取り)・書く・話す(発表)」等、4～5領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「1枚の写真紹介」や「夢の旅行企画」等、様々なテーマを設定している。 ○ 複数の領域を統合した活動は、各学年、各単元末の「Interact」で設定し、「話す(やり取り)」に焦点を当てたものと、「話す(やり取り・発表)・書く」等、2～3領域を統合した言語活動になっている。(例：第2学年16回) ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Power-Up」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」、「書く」の5領域を扱っている。

三 省 堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Project」(年3回)で設定しており、活動の過程に「聞く・書く・話す(発表)」や「聞く・話す(やり取り)・読む・書く・話す(発表)」等、3～5領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「英語のタウンガイド作成」や「修学旅行のプラン提案」等、様々なテーマを設定している。 ○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年中盤から、各単元の「USE Speak」や、「USE Write」等で設定し、「読む・話す(やり取り・発表)・書く」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。(例:第2学年15回) ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各学年、各単元の各パート以外に、「Take Action! Talk」や「READING FOR FUN」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」の3領域を扱っている。
教 育 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Project」(年2～3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く」や「聞く・書く・話す(発表・やり取り)」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「アンケート調査の発表」や「CM作成」等、様々なテーマを設定している。 ○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年中盤から、各単元末の「Task」や、各単元、各パートの「Think & Try」で設定し、「聞く・書く」、「聞く・話す(発表)」や「読む・話す(発表・やり取り)」、「読む・書く」等の2領域を統合した様々な種類の言語活動になっている。(例:第2学年36回) ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Tips for Speaking / Listening / Reading / Writing」、「Reading」等で、「聞く」、「読む」、「話す(発表)」、「書く」の4領域を、コツを示すとともに扱っている。
光 村 図 書 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「You Can Do It!」(年3回)で設定しており、活動の過程に「読む・話す(発表)」や「聞く・書く・話す(やり取り)」等、2～3領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「学校行事の紹介」や「職業診断チャート作成」等、様々なテーマを設定している。 ○ 複数の領域を統合した活動は、各学年、各単元末の「Goal」や各パートの「Speak / Write」で設定し、「聞く・話す(やり取り)」や「読む・書く」等、2領域を統合した言語活動になっている。(例:第2学年32回) ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Your Coach」や「Let's Read」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」の3領域を扱っている。
新 興 出 版 社 啓 林 館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Project」(年2～3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く」や「読む・書く・話す(発表・やり取り)」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「学校紹介」や「伝統行事紹介」等、様々なテーマを設定している。 ○ 複数の領域を統合した活動は、第2学年初めから、各単元末「Express Yourself」や、各単元、各パートの「Use」で設定し、「聞く・書く・話す(発表)・話す(やり取り)」の4領域を統合した言語活動になっている。(例:第2学年32回) ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Let's Talk」や「Let's Read」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」の3領域を扱っている。

3 意見

(1) 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点③の工夫として、単元の目標を、「Speak about～」や「Talk and Write about～」の形で、扉に英語で示している。また、パートごとに、「～しよう」の形で、各ページの上部に、知識・技能等の目標を日本語で示している。さらに、単元の終末に、各目標に対する「ふり返ろう」を設定している。
- 視点③の工夫として、各パートに設定されている知識・技能等に関する目標について、達成度を評価する「Think & Try」を設定している。
- 視点⑦の工夫として、各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が示されており、いずれも、SDGsに関するテーマとなっている。
- 視点⑦の工夫として、各学年の巻末に、学習した内容を活用し、ペアでの応答や即興的なやり取り・発表をするための話題や語彙を示した「Activities Plus」を、赤マスキングシートを付して収録している。
- 視点⑦の工夫として、巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～4つ掲載している。
- 視点⑧の工夫として、複数の領域を統合した活動は、第1学年中盤から、各単元末の「Task」や、各単元、各パートの「Think & Try」で設定し、「聞く・書く」、「聞く・話す(発表)」や「読む・話す(発表・やり取り)」、「読む・書く」等の2領域を統合した様々な種類の言語活動になっている。
- 視点⑧の工夫として、各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Tips for Speaking / Listening / Reading / Writing」、「Reading」等で、「聞く」、「読む」、「話す(発表)」、「書く」の4領域を、コツを示すとともに扱っている。

以上のとおり、教育出版の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「まとまりのある文章を読んで説明文等の大切な部分を理解することに課題が見られる」、「与えられた情報に基づいて正確に書くことや、自分の考えや意見を書くことに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、外国語科 英語で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点③の工夫として、単元の目標を、第1学年では活動について、第2学年以降は題材と活動について、「～することができる」の形で、扉に日本語で示している。また、単元の終末に、生徒が目標について自己評価する箇所を設けている。
- 視点⑦の工夫として、各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が示されている。また、第3学年の表見返しに、SDGsに関するテーマを示している。
- 視点⑦の工夫として、巻末資料の「Optional Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に2～3つ掲載している。
- 視点⑧の工夫として、複数の領域を統合した活動は、第1学年後半から、各単元内の「Unit Activity」や、各単元内の「Mini Activity」で設定し、「聞く・読む・話す(発表・やり取り)」等、2～4領域を統合した発信型の言語活動になっている。
- 視点⑧の工夫として、各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、各学年、「Let's Read」や「Let's Write」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」、「書く」の4領域を扱っている。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「まとまりのある文章を読んで説明文等の大切な部分を理解することに課題が見られる」、「与えられた情報に基づいて正確に書くことや、自分の考えや意見を書くことに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、外国語科 英語で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和3年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔特別の教科 道徳〕 種目〔道徳〕

16 教科 [特別の教科 道徳] 種目 [道徳]

「令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書（教科 [特別の教科 道徳] 種目 [道徳]）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（7者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

1 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「2 本市の実態や生徒の状況」について

- 各学校において、「いじめ見逃し0（ゼロ）」を目指し取組を進める中で、いじめの認知件数は増加傾向にあり、いじめの未然防止に向けた取組を推進していること
- 生徒が当事者として、道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に取り組むことが必要であること

(2) 報告書の「3 調査・研究の観点と視点」について

- 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「体験的な学習を取り入れた工夫」
- 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑦「いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方」
- 観点5「言語活動の充実」、視点⑩「考え、議論するための工夫」

2 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「体験的な学習を取り入れた工夫」

東京書籍	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、2つ掲載し、直前の教材文に関連した学習「ACTION！（アクション）」に、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】</p> <p>「缶コーヒー」（第3学年）C 遵法精神、公德心</p> <p>① 「缶コーヒー」で、コーヒー缶が転がって、「私」のスカートとノートがよごれてしまったとき、それぞれの人は、どのような気持ちになったか、下のふき出しに書きましょう。</p> <p>② 3人一組になって、「会社員の女性」役、「私」役、「竹内さん」役と、役割を決めましょう。</p> <p>③ 役を交替しながら、全員が全ての役を演じましょう。</p> <p>④ それぞれの役を演じてみて、気づいたこと、感じたことを書きましょう。</p> <p>⑤ コーヒー缶が落ちそうになっているときに、「会社員の女性」と「私」は、本当はどうすればよかったのでしょうか。それを見て、「竹内さん」は何と言ったのでしょうか。考えて書きましょう。</p> <p>⑥ ⑤で考えたことをもとにして、3人でそれぞれの役を演じてみましょう。</p> <p>⑦ 本当はどうすればいいのかを、クラス全員で話し合しましょう。</p> <p>⑧ 今日の学習をふり返って、気づいたこと、感じたことについて話し合しましょう。</p>
------	---

教育出版	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、1～2つ掲載し、教材文の終わり「やってみよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】</p> <p>「校長先生の模擬面接」(第3学年) B 礼儀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会にはさまざまなマナーやエチケットがあります。どのようなものがあるか、あげてみましょう。 ・ 皆さんがあげた中から、グループで一つの場面を演じてみましょう。そして、演じてみた感想を書きましょう。 ・ これまで、エスカレーターに乗るときは「歩く人のために片側をあげる」というのがマナーになっていました。しかし、最近では「歩行禁止」がマナーになりつつあります。 <p>なぜ変わってきたのでしょうか。みんなで話し合ってみましょう。</p>
光村図書出版	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、1つ掲載し、教材文の終わり「見方を変えて」のコーナーに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、イラストや吹き出しとともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】</p> <p>「二通の手紙」(第3学年) C 遵法精神、公德心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元さんは、規則を知っていながら、どうして姉弟を動物園の中に入れたのだろう。 ・ 元さんが、「この年になって初めて考えさせられ」たのは、どんなことだったのだろう。 ・ もし、入園終了時間直後の姉弟がやって来た場面に戻れたとしたら、元さんは、どうするだろう。(元さんと姉弟を演じて、考えてみよう。/演じているのを見ていた人は、元さんと姉弟のやり取りから、どんなことを感じたかを発表しよう。)
日本文教出版	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、2つ掲載し、教材文の終わり「学習の進め方」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、写真とともに示しており、別冊「道徳ノート」に自分の考えを記入するページを設けている。</p> <p>○ 「学習の進め方」の教材名の下に、どのような体験をとおして何を考えるのかを示している。また、教材に関連した資料や演技を見るときと意見発表のときのポイントを「学習を深めるヒント」のコーナーに記載している。</p> <p>【体験的な学習の例】</p> <p>「出迎え三步、見送り七歩」(第3学年) B 礼儀</p> <p>お客様を出迎え見送る体験をとおしておもてなしの心について考えてみよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① お客様の出迎え方と見送り方について、グループで話し合おう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家に大切なお客様をお招きするとき、玄関でどのように出迎えればよいか。 ・ お客様が席を立て、玄関から帰るまで、どのように見送ればよいか。 ② <体験しよう> <ul style="list-style-type: none"> ①で話し合った出迎え方、見送り方をみんなの前で演技してみよう。 ③ 演技のあと、感想や意見を発表し合おう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出迎える側、出迎えられる側の思い。 ・ 見送る側、見送られる側の思い。 ④ <考えてみよう> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「出迎え三步、見送り七歩」を読み、山折りさんが「『もてなし』の極意」ではないかと感じたのはどんなことか考えてみよう。 ・ 体験したことにあわせて、お客様と接するとき、どんな心構えが大切かも話し合ってみよう。

<p>学 研 教 育 み ら い</p>	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材文の終わり「深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、イラストや自分の考えを記入する欄とともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「笛」(第3学年) B 相互理解、寛容</p> <p><考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 笛は誰のものにすべきだったろう。3人の少年アンドレ、マイケル、ピート、それ以外の人だろうか。○を付けて、理由を書こう。 <p><やってみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少年たちが笛を誰のものにするか話し合っている場面を演じてみよう。4人組で役割演技を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ① 3人の少年役と仲介役を決める。仲介役は、3人の話を聞き、自分の考えを伝え、解決できるように説得する。3人の少年は自分の立場から考えを話す。 ② 役割を交代する。4人の役を全員が経験するように繰り返す。 ③ 仲介役の演技を通して考えたことを話し合う。
<p>廣 済 堂 あ か つ き</p>	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材文の終わり「考える・話し合う」のコーナーに、複数の発問を示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「席を譲られて」(第3学年) B 礼儀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高橋健二氏のしぐさを見て、私が見た「美しいもの」とはなんだろう。 ・ 席を譲られた人の心には、何がなければならないのだろう。 ・ 礼儀に込めなければならない心について考えてみよう。 ・ 老人や赤ん坊を抱いた人、障害のある人等に席を譲るとき、どのようなことに心がければよいだろうか。
<p>日 本 教 科 書</p>	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、複数掲載し、教材文の終わり「考え、話し合ってみようそして、深めよう」のコーナーなどに発問を示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「礼儀はなぜ必要なのか」(第3学年) B 礼儀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の三つの場面において、“最も礼儀正しい振る舞い”と“最も無礼な振る舞い”は何でしょうか。(初めて人に会う時/不注意で隣の家の窓ガラスを割って謝罪に行く時/プレゼントを人からもらった時) ・ なぜ礼儀正しいことが大切だとされているのでしょうか。

(2) 観点3「内容の構成・配列・分量」、視点⑦「いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方」

<p>東 京 書 籍</p>	<p>○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、3つの教材で構成したユニット「いじめのない世界へ」を1つ設定し、目次にピンク色の枠で示している。また、ユニットの扉ページを設け、1年間にユニットで学ぶ教材や登場人物の紹介を掲載している。</p> <p>○ 各学年の巻末「テーマでふり返ろう」に、現代的な課題を「いじめ・人権」など6つのテーマで教材名とともに示している。</p>
----------------------------	--

教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、2～5つの教材を掲載している。複数の教材やコラムで構成したユニット「いじめや差別のない社会について考える」を第1学年では2つ、第2・3学年では1つ設定し、目次に青色の枠で示している。また、ユニットの扉ページを設け、いじめに立ち向かうことを促すメッセージを掲載している。 ○ 各学年、特集ページ「いじめに立ち向かう」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。 ○ 各学年の巻頭「この教科書で学んでいくテーマ」に、現代的な課題を「いじめ・人権」など7つのテーマで教材名とともに示している。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、3つの教材やコラムで構成したユニット「いじめを許さない心について考える」を1つ設定し、目次に緑色の線で示している。さらに、1つ目の読み物教材で学んだことを深められるよう、同じ内容項目で、2つ目の教材「深めたいむ」を掲載している。 ○ 各学年の巻末「教材別テーマ一覧」に、現代的な課題を「いじめを許さないために」など7つのテーマで教材名等とともに示している。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、5～7つの教材を掲載している。複数の教材やコラムで構成したユニット「『いじめ』と向き合う」を第1学年では3つ、第2・3学年では2つ設定し、目次にオレンジ色の線と枠で示している。また、ユニットの扉ページを設け、いじめ問題について考える上で意識したいことをメッセージで示すとともに、1年間にユニットで学ぶ教材やコラムの紹介を掲載している。 ○ 各学年、コラム「プラットフォーム」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。 ○ 各学年の巻頭「この教科書で学ぶテーマ」に、現代的な課題を「『いじめ』と向き合う」など10のテーマで教材名とともに示している。
学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、4～6つの教材を掲載している。 ○ 第1学年に、コラム「クローズアップ」を設け、いじめと向き合うための資料を掲載している。 ○ 各学年の巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」に、現代的な課題を「いじめをなくすために」など6つのテーマで教材名とともに示している。

廣済堂あかつき	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、4～6つの教材を掲載している。 ○ 各学年、巻末の特集ページ「いじめを許さない私たちの心」及び別冊に、いじめと向き合うための資料を掲載している。 ○ 各学年の巻末「内容一覧」に、現代的な課題を「いじめ」など3つのテーマで示している。
日本教科書	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、複数の教材を掲載している。

(3) 観点5「言語活動の充実」、視点⑩「考え、議論するための工夫」

東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的・多角的な視点から自らの価値観を見つめ直すことができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材、ユニット学習及びコラムのページでは、考え、話し合うことを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。 ○ 各学年に巻末付録として、切り取り可能なホワイトボードや「心情円」を掲載している。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的・多角的な視点から自らの価値観を見つめ直すことができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材及びコラムのページでは、考え、話し合うことを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的・多角的な視点から自らの価値観を見つめ直すことができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材及びコラムのページでは、考え、話し合うことを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的・多角的な視点から自らの価値観を見つめ直すことができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材、ユニット学習及びコラムのページでは、考え、話し合うことを促す発問を示している。また、1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」には、めあてを記入できる欄、考えることや考えたことを記入する欄、他者の意見や話し合いをメモする欄を設けている。さらに、様々な教材に対応できるよう、教材名や内容項目、主題名等を空白にしたページを設けている。 ○ 各学年、「学習の進め方」の「学習を深めるヒント」のコーナーに、ふせんやホワイトボードを使って話し合いを深める方法を掲載している。また、写真と吹き出しを用いて「考えを深める視点」を示している。

学研教育みらい	○ 多面的・多角的な視点から自らの価値観を見つめ直すことができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材、ユニット学習及びコラムのページでは、考え、話し合うことを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。
廣済堂あかつき	○ 多面的・多角的な視点から自らの価値観を見つめ直すことができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材及び特集ページでは、考え、話し合うことを促す発問を示すとともに、別冊「中学生の道徳ノート」の「学習の記録」に自分の考えを記入する欄を設けている。
日本教科書	○ 多面的・多角的な視点から自らの価値観を見つめ直すことができるよう、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材及び特集ページでは、考え、話し合うことを促す発問を示したり、自分の考えを記入する欄を設けたりしている。

3 意見

(1) 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- 視点④の工夫として、体験的な学習を促す教材を、各学年、2つ掲載し、教材文の終わり「学習の進め方」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、写真とともに示している。また、別冊「道徳ノート」に自分の考えを記入するページを設けている。
- 視点⑦の工夫として、複数の教材やコラムで構成したユニット「『いじめ』と向き合う」を第1学年では3つ、第2・3学年では2つ設定し、各学年、合計5～7つの教材を掲載している。また、ユニットの扉ページを設け、いじめ問題について考える上で意識したいことをメッセージで示すとともに、1年間にユニットで学ぶ教材やコラムの紹介を掲載している。
- 視点⑦の工夫として、各学年、コラム「プラットホーム」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。
- 視点⑩の工夫として、1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」に、めあてを記入できる欄、考えることや考えたことを記入する欄、他者の意見や話し合いをメモする欄を設けている。また、様々な教材に対応できるように、教材名や内容項目、主題名等を空白にしたページを設けている。
- 視点⑩の工夫として、各学年、「学習の進め方」の「学習を深めるヒント」のコーナーに、ふせんやホワイトボードを使って話し合いを深める方法を掲載している。また、写真と吹き出しを用いて「考えを深める視点」を示している。

以上のとおり、日本文教出版の教科書は、1(1)に記した、本市の「いじめの未然防止に向けた取組を推進している」という実態や、生徒の「当事者として、道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に取り組むことが必要である」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、道徳科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2) 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- 視点④の工夫として、体験的な学習を促す教材を、各学年、2つ掲載し、直前の教材文に関連した学習「ACTION! (アクション)」に、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに示している。
- 視点⑦の工夫として、ユニット「いじめのない世界へ」を、各学年1つ設定し、3つの教材を掲載している。また、ユニットの扉ページを設け、1年間にユニットで学ぶ教材や登場人物の紹介を掲載している。
- 視点⑩の工夫として、各学年に巻末付録として、切り取り可能なホワイトボードや「心情円」を掲載している。

以上のとおり、東京書籍の教科書は、1(1)に記した、本市の「いじめの未然防止に向けた取組を推進している」という実態や、生徒の「当事者として、道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に取り組むことが必要である」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、道徳科で使用する教科書としてふさわしいと考える。